3 仕様

ネットワークインタフェースユニットの仕様について説明します。

3.1 一般仕様

ネットワークインタフェースユニットの一般仕様を示します。

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="5">仕様</th></tr>
<tr><td>使用周囲温度</td><td colspan="5">0~55℃</td></tr>
<tr><td>保存周囲温度</td><td colspan="5">-25~75℃</td></tr>
<tr><td>使用周囲湿度</td><td colspan="5" rowspan="2">5~95%RH，結露なきこと</td></tr>
<tr><td>保存周囲湿度</td></tr>
<tr><td rowspan="5">耐振動</td><td>—</td><td>周波数</td><td>定加速度</td><td>片振幅</td><td>掃引回数</td></tr>
<tr><td rowspan="2">断続的な振動がある場合</td><td>5~8.4Hz</td><td>—</td><td>3.5mm</td><td rowspan="2">X，Y，Z各方向10回</td></tr>
<tr><td>8.4~150Hz</td><td>9.8m/s²</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">連続的な振動がある場合</td><td>5~8.4Hz</td><td>—</td><td>1.75mm</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>8.4~150Hz</td><td>4.9m/s²</td><td>—</td></tr>
<tr><td>耐衝撃</td><td colspan="5">147m/s²，XYZ3方向各3回</td></tr>
<tr><td>使用雰囲気</td><td colspan="5">腐食性ガスがないこと</td></tr>
<tr><td>使用標高*1</td><td colspan="5">0~2000m</td></tr>
<tr><td>設置場所</td><td colspan="5">制御盤内*2</td></tr>
<tr><td>オーバーボルテージカテゴリ*3</td><td colspan="5">Ⅱ以下</td></tr>
<tr><td>汚染度*4</td><td colspan="5">2以下</td></tr>
</table>

*1 標高0mの大気圧以上に加圧した環境で使用または保存しないでください。使用した場合は，誤動作する可能性があります。加圧して使用する場合には，最寄りの代理店または営業所にご相談ください。

*2 IP20を満たし，かつUL50 type1以上の制御盤内に設置してください。また必要に応じて，使用する環境条件に適した制御盤を設計してください。

*3 その機器が公衆配電網から構内の機械装置にいたるまでの，どこの配電部に接続されていることを想定しているかを示します。カテゴリⅡは，固定設備から給電される機器などに適用します。定格300Vまでの機器の耐サージ電圧は2500Vです。

*4 その機器が使用される環境における，導電性物質の発生度合を示す指標です。汚染度2は，非導電性の汚染しか発生しません。ただし，偶発的な凝結によって一時的な導電が起こりうる環境です。

3.2 Ethernetの通信仕様

項目			ネットワークインタフェースユニット(デジタル入出力用)	ネットワークインタフェースユニット(アナログ入出力用)
ネットワーク仕様	CC-Link IE TSN	通信速度	1Gbps/100Mbps	
		通信モード	1000BASE-T 全二重，100BASE-TX 全二重	
		局種別	リモート局	
		認証Class	認証Class B	
		トポロジー	ライン接続，スター接続，スター接続とライン接続の混在	
		リンク点数	RX/RY: 16点 RWr/RWw: 16点	RX/RY: 32点 RWr/RWw: 32点
	CC-Link IEフィールドネットワーク	通信速度	1Gbps	
		局種別	リモートデバイス局	
		トポロジー	ライン接続，スター接続，スター接続とライン接続の混在，リング接続	
		リンク点数	RX/RY: 16点 RWr/RWw: 16点	RX/RY: 32点 RWr/RWw: 32点
	CC-Link IEフィールドネットワークBasic	通信速度	100Mbps	
		通信モード	100BASE-TX 全二重	
		局種別	スレーブ局	
		トポロジー	スター接続	
		通信方式	UDP/IP	
		接続台数	使用するマスタ局のマニュアルを確認してください。	
		占有局数	1局	
		リンク点数	RX/RY: 64点 RWr/RWw: 32点	
		基準応答時間	1ms	
	SLMP	通信速度	100Mbps	
		通信モード	100BASE-TX 全二重	
		局種別	サーバ	
		トポロジー	スター接続	
		通信形式	IEEE802.3(100BASE-TX)規格に準拠	
		通信方式	UDP/IP	
		通信ポート	45237	
		フレーム種別	3Eフレーム	
		交信データコード	バイナリ	
	MODBUS/TCP (FA3-TH1M16XC, FA3-TH1M16Y, FA3-TH1M16YE, FA3-AT1M8X, FA3-AT1M8Y)	通信速度	100Mbps/10Mbps(オートネゴシエーション)	
		通信モード	100BASE-TX 全二重/半二重，10BASE-T 全二重/半二重	
		機器種別	MODBUS/TCPスレーブ機器	
		トポロジー	スター接続	
		通信形式	IEEE802.3(10BASE-T，100BASE-TX)規格に準拠	
		通信方式	TCP/IP	
		通信ポート	502	
		TCPコネクション数	最大2コネクション	
インタフェース			RJ45コネクタ(AUTO MDI/MDI-X)	
最大フレームサイズ			1518バイト	
最大セグメント長			100m HUBとHUBの間の長さは，使用するスイッチングHUBのメーカに確認してください。	
カスケード接続段数			使用するスイッチングHUBのメーカに確認してください。	
IPバージョン			IPv4	

3.3 性能仕様

ネットワークインタフェースユニット(デジタル入力用)

項目		FA3-TH1T16XC，FA3-TH1M16XC
入力点数		16点
定格入力電圧		DC24V(許容電圧範囲DC21.6V~26.4V)
絶縁方式		フォトカプラ絶縁
最大同時入力点数		100%同時ON
入力応答時間		*1
入力形式		プラスコモン/マイナスコモン共用タイプ
絶縁耐圧		DC外部端子一括アース間AC500V1分間
絶縁抵抗		DC外部端子一括アース間DC500V 絶縁抵抗計にて10MΩ以上
外部接続方式	通信部	RJ45コネクタ
	ユニット電源部	ユニット電源・FG用端子台(2ピーススプリングクランプ端子台)
適用DINレール		☞ 82ページ DINレール
接続ケーブル		☞ 88ページ 使用できるEthernetケーブル
ユニット電源・FG用端子台*2	適合電線サイズ	☞ 85ページ 電線
	適合圧着端子 (フェルール型圧着端子)	☞ 85ページ 電線の端末処理
ユニット電源*3	電圧	DC24V(リップル率5%以内)(許容電圧範囲DC20.4V~28.8V)
	電流	0.11A
外形寸法	H(高さ)	105mm(突起形状含まず)
	W(幅)	40mm
	D(奥行き)	70mm(突起形状含まず)
質量		160g

*1　入力応答時間設定機能により変更できます。(☞ 109ページ 入力応答時間設定機能)

タイミング	設定値(デフォルト:1ms)							
	0ms	0.2ms	1ms	1.5ms	5ms	10ms	20ms	70ms
OFF→ON(MAX.)	0.1ms	0.2ms	1ms	1.5ms	5ms	10ms	20ms	70ms
ON→OFF(MAX.)	0.4ms	0.5ms	1ms	1.5ms	5ms	10ms	20ms	70ms

*2　端子台への配線は，1つの配線挿入口につき1本のみで，複数配線はできません。2本以上の電線を差し込んだ場合，接触不良となる可能性があります。

*3　UL508の電圧・電流制限回路(LVLC)に適合した電源，またはSELV(Safety Extra-Low Voltage)回路とLIM(Limited Energy Circuit)回路に準拠した電源を使用してください。

ネットワークインタフェースユニット(デジタル出力用)

項目		FA3-TH1T16Y，FA3-TH1M16Y	FA3-TH1T16YE，FA3-TH1M16YE
出力点数		16点	
絶縁方式		フォトカプラ絶縁	
定格負荷電圧		DC24V(許容電圧範囲21.6V~26.4V)	
出力応答時間	OFF→ON	0.5ms以下	
	ON→OFF	1.5ms以下	
出力形式		シンクタイプ	ソースタイプ
サージキラー		ツェナーダイオード	
絶縁耐圧		DC外部端子一括アース間AC500V1分間	
絶縁抵抗		DC外部端子一括アース間DC500V 絶縁抵抗計にて10MΩ以上	
外部接続方式	通信部	RJ45コネクタ	
	ユニット電源部	ユニット電源・FG用端子台(2ピーススプリングクランプ端子台)	
適用DINレール		☞ 82ページ DINレール	
接続ケーブル		☞ 88ページ 使用できるEthernetケーブル	
ユニット電源・FG用端子台*1	適合電線サイズ	☞ 85ページ 電線	
	適合圧着端子 (フェルール型圧着端子)	☞ 85ページ 電線の端末処理	
ユニット電源*2	電圧	DC24V(リップル率5%以内)(許容電圧範囲DC20.4V~28.8V)	
	電流	0.12A	
外形寸法	H(高さ)	105mm(突起形状含まず)	
	W(幅)	40mm	
	D(奥行き)	70mm(突起形状含まず)	
質量		160g	

*1　端子台への配線は，1つの配線挿入口につき1本のみで，複数配線はできません。2本以上の電線を差し込んだ場合，接触不良となる可能性があります。

*2　UL508の電圧・電流制限回路(LVLC)に適合した電源，またはSELV(Safety Extra-Low Voltage)回路とLIM(Limited Energy Circuit)回路に準拠した電源を使用してください。

ネットワークインタフェースユニット(アナログ入力用)

項目		FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8X
アナログ入力	電圧	DC1~5V
デジタル出力		-384~16383
入出力特性*1	アナログ入力レンジ	1~5V
	デジタル出力(実用範囲)	0~16000
精度*1 (デジタル出力値の最大値に対する精度)	周囲温度0~55℃	±0.3%(±48digit)
	周囲温度25±5℃	±0.1%(±16digit)
	最大分解能	0.25mV
最大変換速度		1ms/チャンネル
絶対最大入力		電圧: ±15V
アナログ入力点数		8チャンネル/ユニット
絶縁	絶縁方式	通信系-アナログ入力一括: デジタルアイソレータ 電源系-アナログ入力一括: トランス絶縁 アナログ入力間: 非絶縁
	絶縁耐圧	AC500V 1分間
	絶縁抵抗	DC500V絶縁抵抗計にて5MΩ以上
外部接続方式	通信部	RJ45コネクタ
	ユニット電源部	ユニット電源・FG用端子台(2ピーススプリングクランプ端子台)
適用DINレール		☞ 82ページ DINレール
接続ケーブル		☞ 88ページ 使用できるEthernetケーブル
ユニット電源・FG用端子台*2	適合電線サイズ	☞ 85ページ 電線
	適合圧着端子 (フェルール型圧着端子)	☞ 85ページ 電線の端末処理
ユニット電源*3	電圧	DC24V(リップル率5%以内)(許容電圧範囲DC20.4V~28.8V)
	電流	0.14A
外形寸法	H(高さ)	105mm(突起形状含まず)
	W(幅)	40mm
	D(奥行き)	70mm(突起形状含まず)
質量		160g

*1　入出力変換特性と精度については，下記を参照してください。
☞ 24ページ 入出力変換特性
☞ 26ページ 変換精度

*2　端子台への配線は，1つの配線挿入口につき1本のみで，複数配線はできません。2本以上の電線を差し込んだ場合，接触不良となる可能性があります。

*3　UL508の電圧・電流制限回路(LVLC)に適合した電源，またはSELV(Safety Extra-Low Voltage)回路とLIM(Limited Energy Circuit)回路に準拠した電源を使用してください。

ネットワークインタフェースユニット(アナログ出力用)

項目		FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Y
デジタル入力		0~16000
アナログ出力	電圧	DC1~5V(外部負荷抵抗: 10kΩ以上)
入出力特性*1	デジタル入力値(実用範囲)	0~16000
	アナログ出力レンジ	1~5V
精度*1 (アナログ出力値の最大値に対する精度)	周囲温度0~55℃	±0.3%(±12mV)
	周囲温度25±5℃	±0.1%(±4mV)
	最大分解能	0.25mV
最大変換速度		1ms/チャンネル
出力短絡保護		あり
最大出力		+5V
アナログ出力点数		8チャンネル/ユニット
絶縁	絶縁方式	通信系-アナログ出力一括: デジタルアイソレータ 電源系-アナログ出力一括: トランス絶縁 アナログ出力間: 非絶縁
	絶縁耐圧	AC500V 1分間
	絶縁抵抗	DC500V絶縁抵抗計にて5MΩ以上
外部接続方式	通信部	RJ45コネクタ
	ユニット電源部	ユニット電源・FG用端子台(2ピーススプリングクランプ端子台)
適用DINレール		☞ 82ページ DINレール
接続ケーブル		☞ 88ページ 使用できるEthernetケーブル
ユニット電源・FG用端子台*2	適合電線サイズ	☞ 85ページ 電線
	適合圧着端子 (フェルール型圧着端子)	☞ 85ページ 電線の端末処理
ユニット電源*3	電圧	DC24V(リップル率5%以内)(許容電圧範囲DC20.4V~28.8V)
	電流	0.14A
外形寸法	H(高さ)	105mm(突起形状含まず)
	W(幅)	40mm
	D(奥行き)	70mm(突起形状含まず)
質量		160g

*1　入出力変換特性と精度については，下記を参照してください。
☞ 24ページ 入出力変換特性
☞ 26ページ 変換精度

*2　端子台への配線は，1つの配線挿入口につき1本のみで，複数配線はできません。2本以上の電線を差し込んだ場合，接触不良となる可能性があります。

*3　UL508の電圧・電流制限回路(LVLC)に適合した電源，またはSELV(Safety Extra-Low Voltage)回路とLIM(Limited Energy Circuit)回路に準拠した電源を使用してください。

入出力変換特性

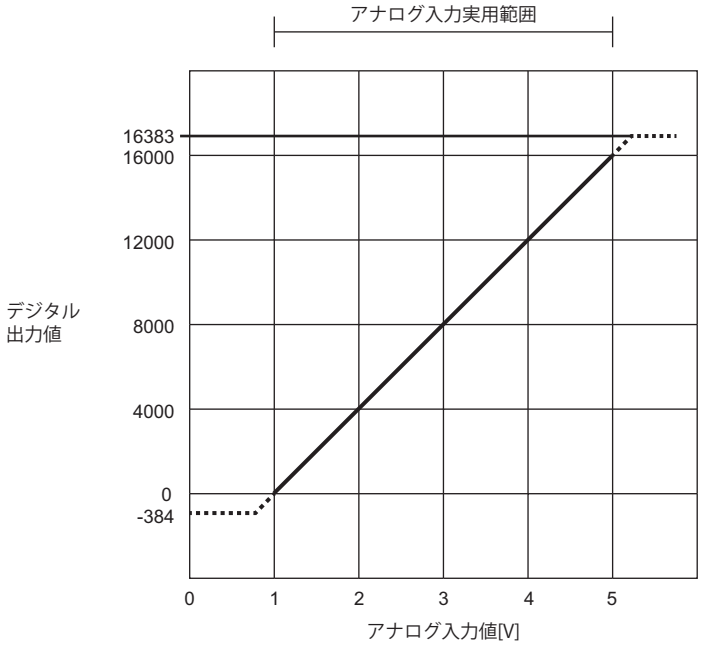
ネットワークインタフェースユニット(アナログ入出力用)の入出力変換特性を示します。

FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8X

入力変換特性は，シーケンサ外部からのアナログ信号(電圧)をデジタル値に変換するときのオフセット値とゲイン値を直線で結んだ傾きを示します。

- オフセット値は，デジタル出力値が0となるアナログ入力値(電圧)です。
- ゲイン値は，デジタル出力値が16000となるアナログ入力値(電圧)です。

入力変換特性のグラフを示します。



オフセット値	ゲイン値	デジタル出力値	最大分解能
1V	5V	0~16000	0.25mV

Point

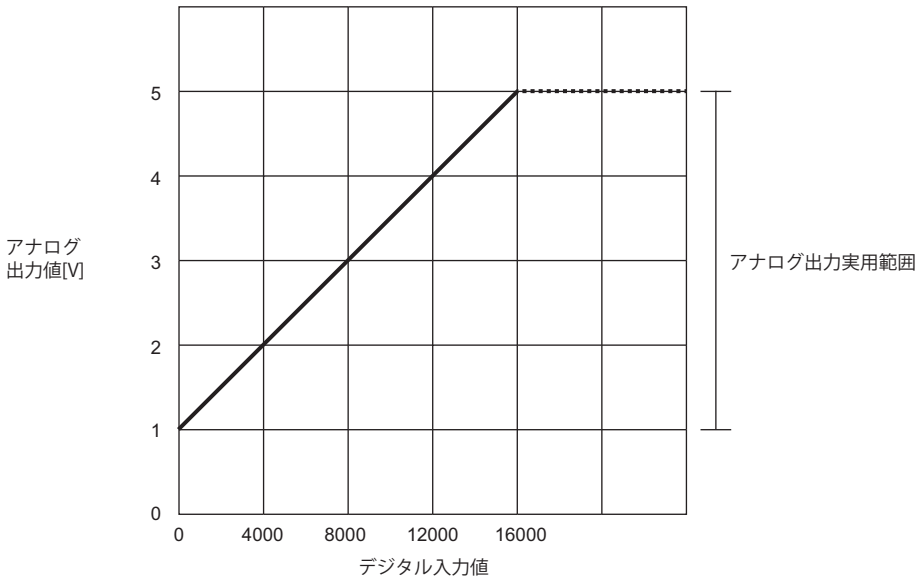
- デジタル出力値の範囲を超えるアナログ入力がされた場合，デジタル出力値は最大または最小に固定されます。デジタルクリップ無効時，最小値は-384，最大値は16383です。デジタルクリップ有効時，最小値は0，最大値は16000です。
- 入力特性グラフの点線部分の使用は避けてください。アナログ入力範囲およびデジタル出力範囲の範囲内のとき，最大分解能，精度は性能仕様の範囲となります。その範囲を超過すると性能仕様の精度に入らないことがあります。

FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Y

出力変換特性は，CPUユニットから設定されたデジタル値をアナログ値(電圧)に変換するときのオフセット値とゲイン値を直線で結んだ傾きを示します。

- オフセット値は，CPUユニットから設定されたデジタル値が0のとき，出力されるアナログ値(電圧)です。
- ゲイン値は，CPUユニットから設定されたデジタル値が16000のとき，出力されるアナログ値(電圧)です。

出力変換特性のグラフを示します。



オフセット値	ゲイン値	デジタル入力値	最大分解能
1V	5V	0~16000	0.25mV

Point

出力変換特性グラフの点線部分の使用は避けてください。デジタル入力範囲およびアナログ出力範囲の範囲内のとき，最大分解能，精度は性能仕様の範囲となります。その範囲を超過すると性能仕様の精度に入らないことがあります。

変換精度

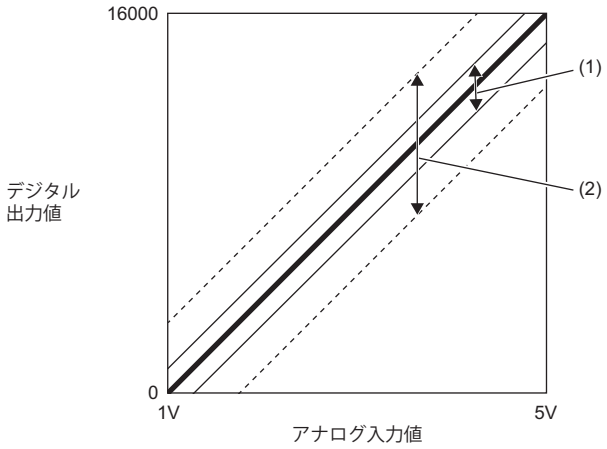
ネットワークインタフェースユニット(アナログ入出力用)の変換精度を示します。

Point

下記の精度は，本製品単体での精度です。システムの精度は，接続するアナログ信号変換器の精度との総和となります。

FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8X

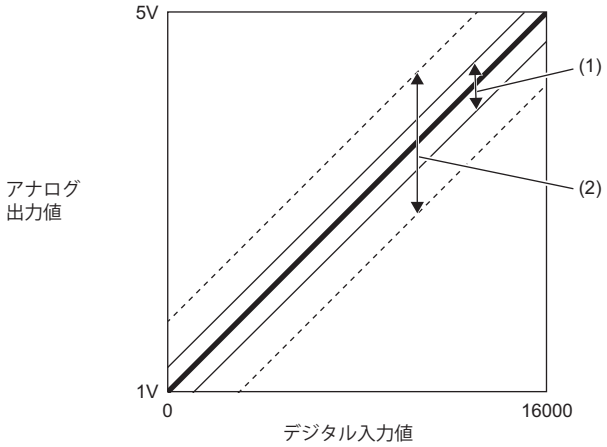
変換精度は，デジタル出力値の最大値に対する精度です。
使用周囲温度25±5℃のとき±0.1%(±16digit)以内，使用周囲温度0~55℃のとき±0.3%(±48digit)以内の精度でデジタル値を出力します。(ただし，ノイズの影響を受けている場合は除きます)



(1) 使用周囲温度25±5℃のとき±0.1%(±16digit)以内
(2) 使用周囲温度0~55℃のとき±0.3%(±48digit)以内

FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Y

変換精度は，アナログ出力値の最大値に対する精度です。
使用周囲温度25±5℃のとき±0.1%(±4mV)以内，使用周囲温度0~55℃のとき±0.3%(±12mV)以内の精度でアナログ出力します。(ただし，ノイズの影響を受けている場合は除きます)



(1) 使用周囲温度25±5℃のとき±0.1%(±4mV)以内
(2) 使用周囲温度0~55℃のとき±0.3%(±12mV)以内

変換速度

ネットワークインタフェースユニット(アナログ入出力用)の変換速度を示します。

FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8X

変換速度は，チャンネル切換えからA/D変換完了までの時間を示します。1チャンネルあたりの変換速度は1msです。
ただしCC-Link IE TSNのシステムでは，データリンク処理時間がかかります。そのためCH□デジタル演算値(RWr2~RWr9)に値が格納される周期は，下記の計算式で算出される時間となります。

データリンク処理時間=SM+LS+リモート局処理時間

SM:マスタ局シーケンスプログラムのスキャンタイム
LS: 通信周期間隔
リモート局処理時間: 変換速度(1ms/CH)×変換許可チャンネル数

データリンク処理時間の詳細は，マスタユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。
また接続するアナログ信号変換器の処理周期は10msとなります。そのため変換許可チャンネルが1つのみの場合，最短1msで入力値を取得できますが，10ms間は同じ値しか取得できません。

FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Y

変換速度は，リモートレジスタに書き込まれたデジタル出力値を読み出し，D/A変換後にアナログ値を出力するまでに要する時間を示します。1チャンネルあたりの変換速度は1msです。
ただしCC-Link IE TSNのシステムでは，データリンク処理時間がかかります。そのため実際にCH□デジタル値(RWw2~RWw9)がD/A変換されて，アナログ出力値が出力されるまでは，下記の計算式で算出される時間となります。

データリンク処理時間=SM+LS+リモート局処理時間

SM:マスタ局シーケンスプログラムのスキャンタイム
LS: 通信周期間隔
リモート局処理時間: 変換速度(1ms/CH)×変換許可チャンネル数

データリンク処理時間の詳細は，マスタユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。
また変換許可チャンネルが1つのみの場合，最短1msで出力値を出力できますが，接続するアナログ信号変換器およびDA変換モジュールの応答速度によっては出力値を即時に反映できない場合があります。

3.4 リモート入出力信号

リモート入出力信号の割付けと機能について説明します。
リモート入力信号(RX)はネットワークインタフェースユニットからマスタユニットへの入力信号，リモート出力信号(RY)はマスタユニットからネットワークインタフェースユニットへの出力信号です。

FA3-TH1T16XC，FA3-TH1M16XC

リモート入出力信号の一覧

信号方向: スレーブ→マスタ		信号方向: マスタ→スレーブ	
リモート入力信号(RX)	名称	リモート出力信号(RY)	名称
RX0	外部入力信号X0	RY0	使用禁止
RX1	外部入力信号X1	RY1	
RX2	外部入力信号X2	RY2	
RX3	外部入力信号X3	RY3	
RX4	外部入力信号X4	RY4	
RX5	外部入力信号X5	RY5	
RX6	外部入力信号X6	RY6	
RX7	外部入力信号X7	RY7	
RX8	外部入力信号X8	RY8	
RX9	外部入力信号X9	RY9	
RXA	外部入力信号XA	RYA	
RXB	外部入力信号XB	RYB	
RXC	外部入力信号XC	RYC	
RXD	外部入力信号XD	RYD	
RXE	外部入力信号XE	RYE	
RXF	外部入力信号XF	RYF	

Point

使用禁止のリモート入出力信号は，使用しないでください。使用した場合，正常に動作しない場合があります。

リモート入力信号(RX)の詳細

■外部入力信号(RX0~RXF)

外部入力のON/OFF状態を示します。
ネットワークインタフェースユニットで重度エラーまたは中度エラーが発生している場合，本信号はOFFになります。

FA3-TH1T16Y，FA3-TH1T16YE，FA3-TH1M16Y，FA3-TH1M16YE

リモート入出力信号の一覧

信号方向: スレーブ→マスタ		信号方向: マスタ→スレーブ	
リモート入力信号(RX)	名称	リモート出力信号(RY)	名称
RX0	使用禁止	RY0	外部出力信号Y0
RX1		RY1	外部出力信号Y1
RX2		RY2	外部出力信号Y2
RX3		RY3	外部出力信号Y3
RX4		RY4	外部出力信号Y4
RX5		RY5	外部出力信号Y5
RX6		RY6	外部出力信号Y6
RX7		RY7	外部出力信号Y7
RX8		RY8	外部出力信号Y8
RX9		RY9	外部出力信号Y9
RXA		RYA	外部出力信号YA
RXB		RYB	外部出力信号YB
RXC		RYC	外部出力信号YC
RXD		RYD	外部出力信号YD
RXE		RYE	外部出力信号YE
RXF		RYF	外部出力信号YF

Point

使用禁止のリモート入出力信号は，使用しないでください。使用した場合，正常に動作しない場合があります。

リモート出力信号(RY)の詳細

■外部出力信号(RY0~RYF)

外部出力をON/OFFします。

ネットワークインタフェースユニットで重度エラーまたは中度エラーが発生している場合，本信号はOFFになります。

出力HOLD/CLEAR設定機能により，下記の場合でも，直前まで出力されていた値を保持(HOLD)できます。(☞ 110ページ 出力HOLD/CLEAR設定機能)

- ネットワークインタフェースユニットがデータリンクから解列している。
- CPUユニットの動作状態が，STOPやエラー停止状態である。

FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8X

リモート入出力信号の一覧

信号方向: スレーブ→マスタ		信号方向: マスタ→スレーブ	
リモート入力信号(RX)	名称	リモート出力信号(RY)	名称
RX0	使用禁止	RY0	使用禁止
RX1		RY1	
RX2		RY2	
RX3		RY3	
RX4		RY4	
RX5		RY5	
RX6		RY6	
RX7		RY7	
RX8		RY8	
RX9	イニシャルデータ設定完了フラグ	RY9	イニシャルデータ設定要求フラグ
RXA	エラー状態フラグ	RYA	エラークリア要求フラグ
RXB	リモートREADY	RYB	使用禁止
RXC	使用禁止	RYC	
RXD		RYD	
RXE		RYE	
RXF		RYF	
RX10	CH1 A/D変換完了フラグ	RY10	
RX11	CH2 A/D変換完了フラグ	RY11	
RX12	CH3 A/D変換完了フラグ	RY12	
RX13	CH4 A/D変換完了フラグ	RY13	
RX14	CH5 A/D変換完了フラグ	RY14	
RX15	CH6 A/D変換完了フラグ	RY15	
RX16	CH7 A/D変換完了フラグ	RY16	
RX17	CH8 A/D変換完了フラグ	RY17	
RX18	警報出力信号	RY18	
RX19	使用禁止	RY19	
RX1A		RY1A	
RX1B		RY1B	
RX1C	入力信号異常検出信号	RY1C	
RX1D	最大値・最小値リセット完了フラグ	RY1D	最大値・最小値リセット要求
RX1E	使用禁止	RY1E	使用禁止
RX1F		RY1F	

Point

使用禁止のリモート入出力信号は，使用しないでください。使用した場合，正常に動作しない場合があります。

リモート入力信号(RX)の詳細

■イニシャルデータ設定完了フラグ(RX9)

FA3-ATでは，ネットワークインタフェースユニットの動作条件を設定・変更するとき，リモートバッファメモリにパラメータを書き込んだあと，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をONすることでパラメータが有効になります。
動作条件の設定・変更が完了すると，本信号がONされます。
下記の設定を変更したとき，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFするインタロック条件として使用します。

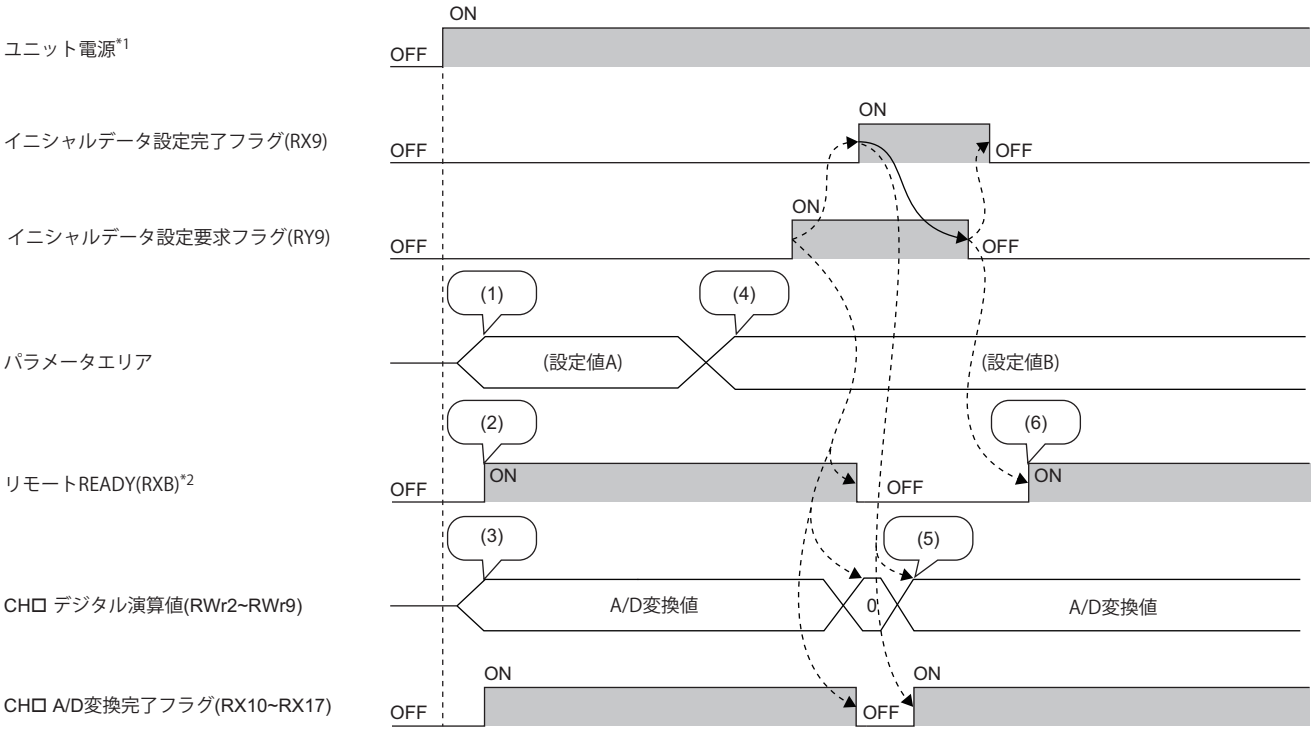
■ユニット単位パラメータ

- ☞ 64ページ CH□ A/D変換許可/禁止設定(0102H)
- ☞ 64ページ CH□ 平均処理指定(0105H，0106H)
- ☞ 64ページ CH□ 平均時間/平均回数/移動平均設定(0107H~010EH)
- ☞ 64ページ 入力信号異常検出設定(010FH，0110H)
- ☞ 65ページ 警報出力設定(0111H)
- ☞ 65ページ CH□ プロセスアラーム上限値/下限値(0112H~0131H)
- ☞ 65ページ デジタルクリップ有効/無効設定(0132H)
- ☞ 65ページ スケーリング有効/無効設定(0133H)
- ☞ 66ページ CH□ スケーリング上限値/下限値(0134H~0143H)

■ユニット単位制御データ

- ☞ 66ページ CH□ ロギングデータ設定(4100H~4107H)
- ☞ 66ページ CH□ ロギング周期設定(4108H~410FH)
- ☞ 66ページ CH□ ロギング周期単位設定(4110H~4117H)

イニシャルデータ設定中はA/D変換を中断し，CH□ デジタル演算値(RWr2~RWr9)とCH□ A/D変換完了フラグ(RX10~RX17)をクリアします。
本信号がOFF→ONになるとA/D変換を再開します。



- - - - - - - - - ▶ ネットワークインタフェースユニットで実施
———————▶ プログラムで実施

(1) デフォルト値読出し
(2) 設定値A(デフォルト値)での動作を開始
(3) A/D変換を開始
(4) ユーザによる設定値変更
(5) A/D変換を再開
(6) 設定値Bで動作を開始

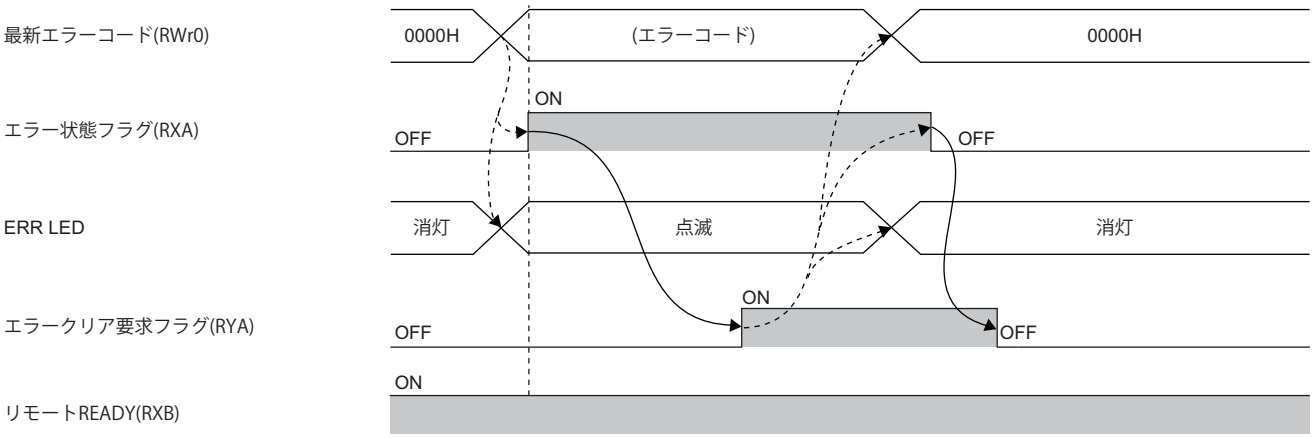
*1 ネットワークインタフェースユニットの電源ONと同時にデータリンクする場合です。
*2 イニシャルデータ設定後にネットワークインタフェースユニットを使用する場合は，リモートREADY(RXB)がONしていることを確認してから使用してください。

■エラー状態フラグ(RXA)

エラーが発生したときに，本信号がONされます。

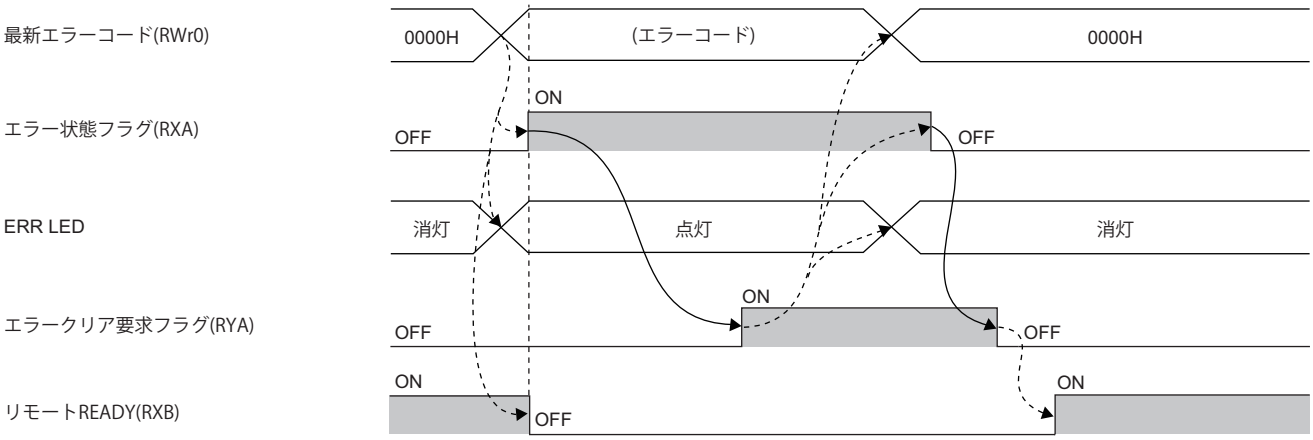
最新エラーコード(RWr0)をクリアするには，エラークリア要求フラグ(RYA)をOFF→ON→OFFしてください。

• 軽度エラーの場合



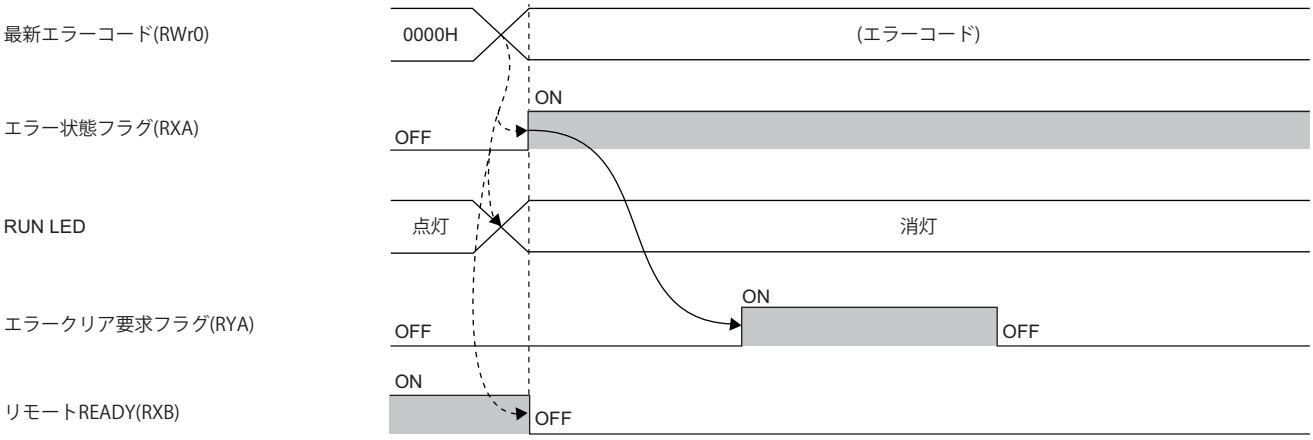
ネットワークインタフェースユニットで実施
プログラムで実施

• 中度エラーの場合



ネットワークインタフェースユニットで実施
プログラムで実施

• 重度エラーの場合



ネットワークインタフェースユニットで実施
プログラムで実施

重度エラーの場合は，エラークリア要求を実施しても，エラーはクリアされません。

■リモートREADY(RXB)

マスタ局からネットワークインタフェースユニットに対する読出し/書込みのインタロックに使用します。
電源投入後，本信号がONされます。中度，重度エラーが発生したときに本信号はOFFされます。

■CH□ A/D変換完了フラグ(RX10~RX17)

CH□ A/D変換許可/禁止設定(リモートバッファメモリ0102H)で変換許可されているチャンネルのA/D変換が完了すると，本信号がONされます。
イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFするとOFF(デフォルト)に戻り，A/D変換が完了するとONされます。

■警報出力信号(RX18)

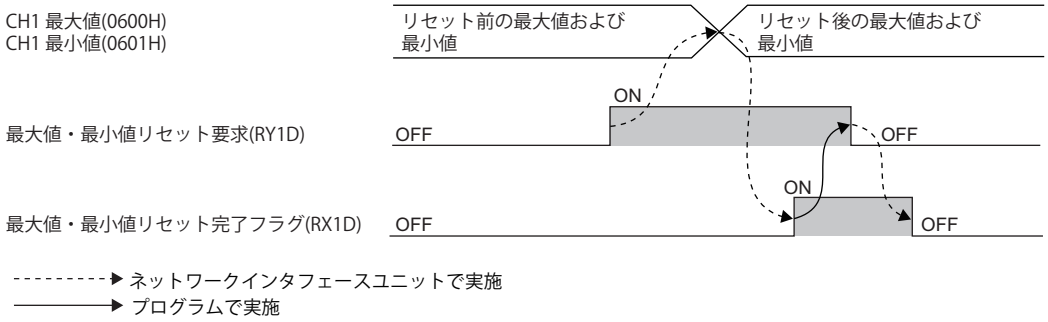
デジタル演算値がCH□ プロセスアラーム上限値/下限値(リモートバッファメモリ0112H~0131H)に設定した警報出力範囲に入ると，本信号がONされます。(☞ 119ページ 警報出力機能(プロセスアラーム))
警報出力設定(リモートバッファメモリ0111H)で許可したチャンネルのうち1チャンネルでもデジタル演算値が警報出力範囲に入ると，本信号と警報出力フラグ(RWrB)の該当ビットがONされ，最新アラームコード(RWr1)にアラームコードが格納されます。(☞ 304ページ FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8Xのアラームコード)
警報出力を許可した全チャンネルでデジタル演算値が警報出力範囲から正常に戻ると，自動的に本信号と警報出力フラグ(RWrB)の該当ビットがOFFされ，ALM LEDが消灯します。

■入力信号異常検出信号(RX1C)

入力信号異常検出設定(リモートバッファメモリ010FH，0110H)を入力信号異常検出に設定したチャンネルで入力信号異常を検出すると本信号がONされ，CH□ A/D変換完了フラグ(RX10~RX17)がOFFされ，ALM LEDが点滅します。また，最新アラームコード(RWr1)にアラームコード(0D2□H)が格納されます。(☞ 117ページ 入力信号異常検出機能)
入力信号異常として検出する範囲は，0.5V以下または5.5V以上になった場合です。
本信号がONになると該当チャンネルのデジタル演算値は，異常検出直前の値で保持されます。
アナログ入力値が正常範囲に戻った後，エラークリア要求フラグ(RYA)またはイニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ONすると，本信号がOFFされ，ALM LEDが消灯して，最新アラームコード(RWr1)がクリアされます。
エラークリア要求フラグ(RYA)またはイニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)は，本信号がOFFした後にON→OFFしてください。本信号がOFFする前にON→OFFすると，本信号はOFFされません。
アナログ入力値が正常範囲に戻ると，本信号のON→OFFに関係なく，A/D変換が再開されます。

■最大値・最小値リセット完了フラグ(RX1D)

最大値・最小値リセット要求(RY1D)のOFF→ON→OFFにより，CH□ 最大値・最小値(リモートバッファメモリ0600H~060FH)に格納された最大値・最小値がリセットされると，本信号がONになります。



リモート出力信号(RY)の詳細

■イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)

FA3-ATでは，ネットワークインタフェースユニットの動作条件を設定・変更するとき，リモートバッファメモリにパラメータを書き込んだあと，本信号をONすることでパラメータが有効になります。
また，本信号をONすると，一部のエラーがクリアされます。クリアされるエラーは，下記を参照してください。
☞ 298ページ FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8Xのエラーコード
動作条件の設定・変更が完了すると，イニシャルデータ設定完了フラグ(RX9)がONされます。(☞ 31ページ イニシャルデータ設定完了フラグ(RX9))

■エラークリア要求フラグ(RYA)

エラーまたはアラームの要因を取り除いてから本信号をOFF→ONすると，エラー状態フラグ(RXA)がOFFされて，下記がクリアされます。(☞ 32ページ エラー状態フラグ(RXA))

- 最新エラーコード(RWr0)[*1]
- 最新アラームコード(RWr1)
- 入力信号異常検出信号(RX1C)

*1　重度エラーの場合は，本信号をONしても，エラー状態フラグ(RXA)はOFFになりません。

エラーとアラームについては，下記を参照してください。
☞ 298ページ FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8Xのエラーコード，☞ 304ページ FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8Xのアラームコード
エラー状態フラグ(RXA)がOFFする前に，本信号をON→OFFすると，エラー状態フラグ(RXA)がOFFされません。
本信号をONしてもエラー履歴はクリアされません。

■最大値・最小値リセット要求(RY1D)

本信号をOFF→ON→OFFすると，CH□ 最大値・最小値(リモートバッファメモリ0600H~060FH)がクリアされます。
OFF→ON→OFFのタイミングは，下記を参照してください。
☞ 33ページ 最大値・最小値リセット完了フラグ(RX1D)

FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Y

リモート入出力信号の一覧

信号方向: スレーブ→マスタ		信号方向: マスタ→スレーブ	
リモート入力信号(RX)	名称	リモート出力信号(RY)	名称
RX0~RX8	使用禁止	RY0~RY8	使用禁止
RX9	イニシャルデータ設定完了フラグ	RY9	イニシャルデータ設定要求フラグ
RXA	エラー状態フラグ	RYA	エラークリア要求フラグ
RXB	リモートREADY	RYB	使用禁止
RXC	使用禁止	RYC	
RXD		RYD	
RXE		RYE	
RXF		RYF	
RX10		RY10	CH1 出力許可/禁止フラグ
RX11		RY11	CH2 出力許可/禁止フラグ
RX12		RY12	CH3 出力許可/禁止フラグ
RX13		RY13	CH4 出力許可/禁止フラグ
RX14		RY14	CH5 出力許可/禁止フラグ
RX15		RY15	CH6 出力許可/禁止フラグ
RX16		RY16	CH7 出力許可/禁止フラグ
RX17		RY17	CH8 出力許可/禁止フラグ
RX18		RY18	使用禁止
RX19		RY19	
RX1A		RY1A	
RX1B		RY1B	
RX1C		RY1C	
RX1D		RY1D	
RX1E	警報出力信号	RY1E	
RX1F	使用禁止	RY1F	

Point

使用禁止のリモート入出力信号は，使用しないでください。使用した場合，正常に動作しない場合があります。

リモート入力信号(RX)の詳細

■イニシャルデータ設定完了フラグ(RX9)

FA3-ATでは，ネットワークインタフェースユニットの動作条件を設定・変更するとき，リモートバッファメモリにパラメータを書き込んだあと，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をONすることでパラメータが有効になります。
動作条件の設定・変更が完了すると本信号がONされます。
下記の設定を変更したとき，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFするインタロック条件として使用します。

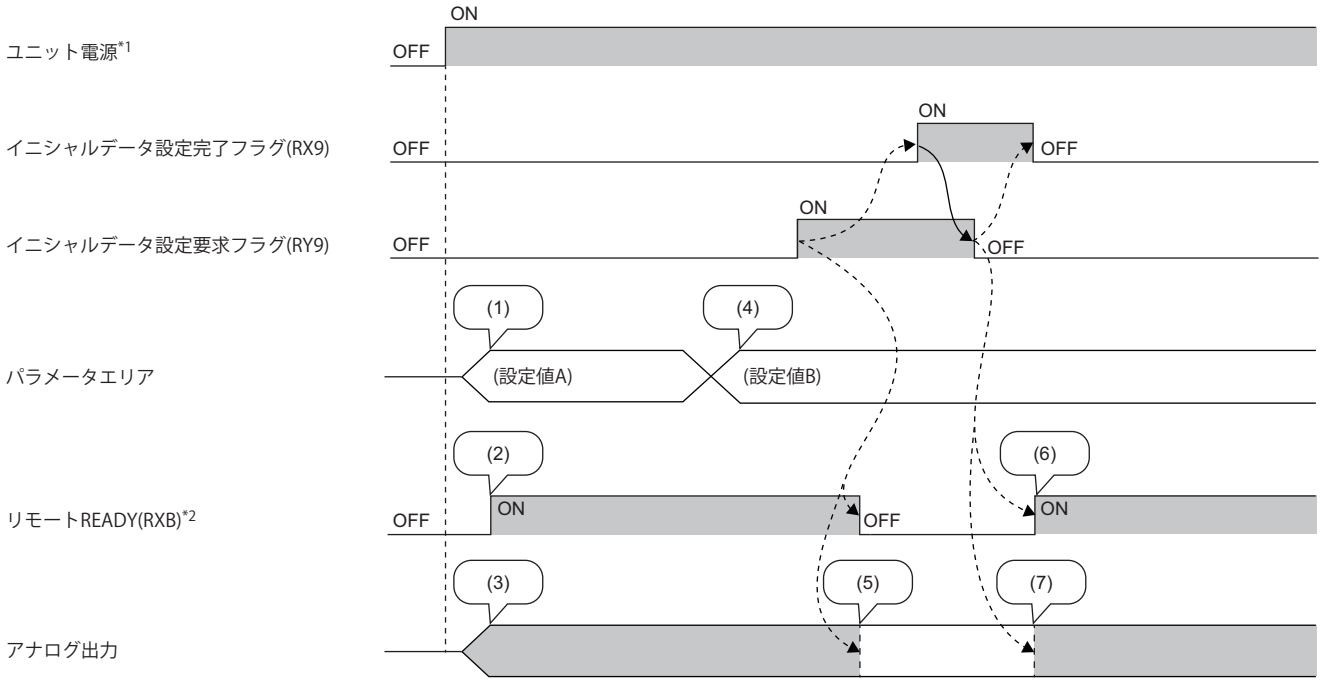
■ユニット単位パラメータ

- ☞ 69ページ CH□ D/A変換許可/禁止設定(0102H)
- ☞ 69ページ アナログ出力HOLD/CLEAR設定(0105H，0106H)
- ☞ 69ページ 警報出力設定(0107H)
- ☞ 69ページ CH□ 警報出力上限値/下限値(0108H~0117H)
- ☞ 70ページ スケーリング有効/無効設定(0118H)
- ☞ 70ページ CH□ スケーリング上限値/下限値(0119H~0128H)

■ユニット単位制御データ

- ☞ 70ページ CH□ ロギングデータ設定(4100H~4107H)

イニシャルデータ設定中はD/A変換を中断しますが，イニシャルデータ設定開始直前のアナログ出力レベルを一時的に保持します。イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)がON→OFFされると，D/A変換を再開します。
本信号がONしたら速やかにイニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFFするようにしてください。



(1) デフォルト値読出し
(2) 設定値A(デフォルト値)での動作を開始
(3) D/A変換を開始
(4) 設定値の変更
(5) 直前のアナログ出力を一時的に保持
(6) 設定値Bでの動作を開始
(7) D/A変換を再開

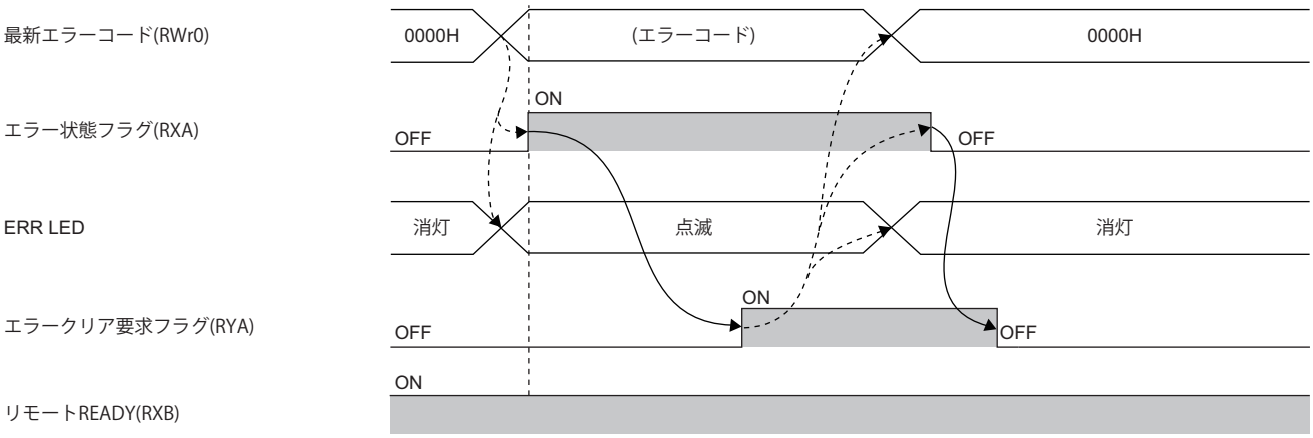
*1 ネットワークインタフェースユニットの電源ONと同時にデータリンクする場合です。
*2 イニシャルデータ設定後にネットワークインタフェースユニットを使用する場合は，リモートREADY(RXB)がONしていることを確認してから使用してください。

■エラー状態フラグ(RXA)

エラーが発生したときに，本信号がONされます。

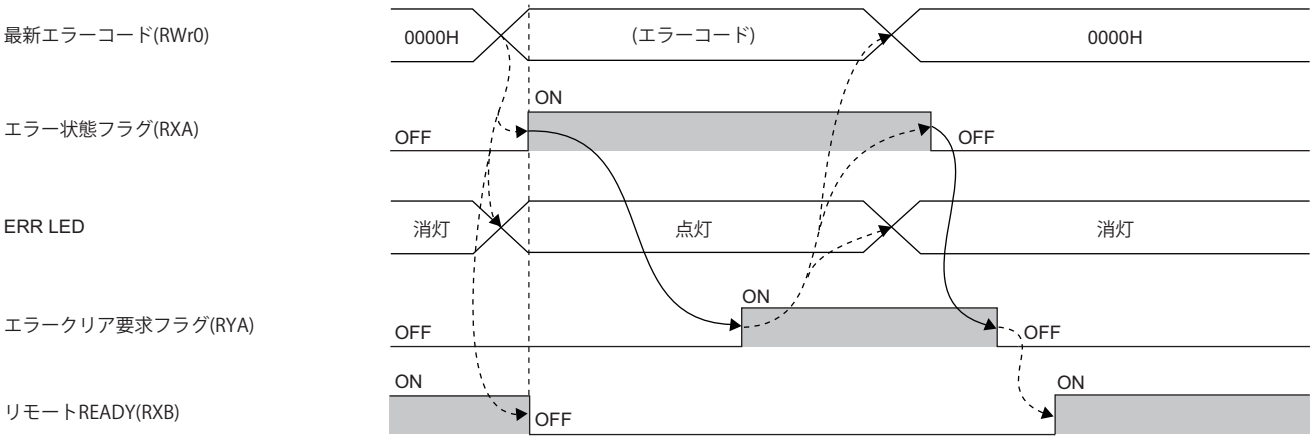
最新エラーコード(RWr0)をクリアするには，エラークリア要求フラグ(RYA)をOFF→ON→OFFしてください。

- 軽度エラーの場合



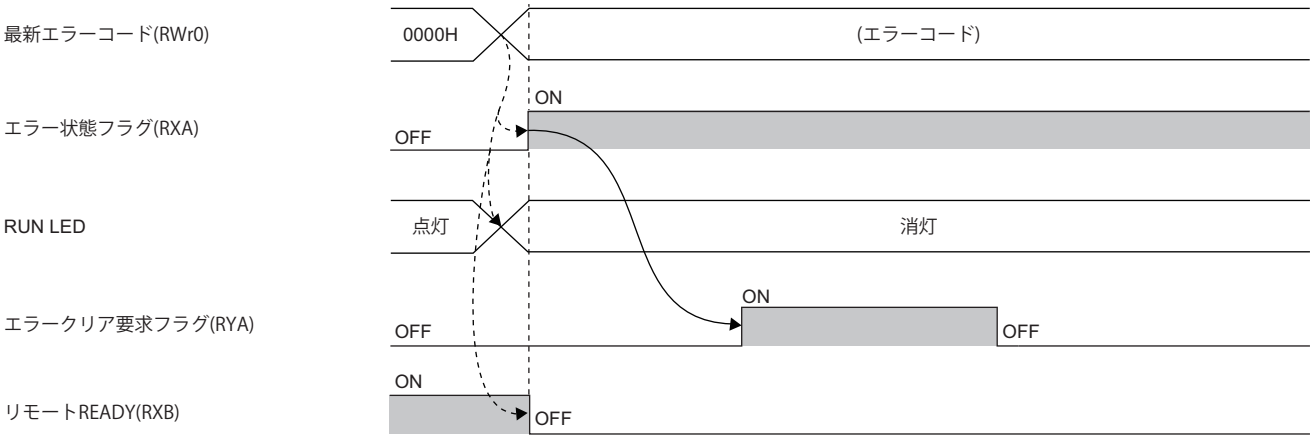
- - - - - - - - → ネットワークインタフェースユニットで実施
——————→ プログラムで実施

- 中度エラーの場合



- - - - - - - - → ネットワークインタフェースユニットで実施
——————→ プログラムで実施

- 重度エラーの場合



- - - - - - - - → ネットワークインタフェースユニットで実施
——————→ プログラムで実施

重度エラーの場合は，エラークリア要求を実施しても，エラーはクリアされません。

■リモートREADY(RXB)

マスタ局からネットワークインタフェースユニットに対する読出し/書込みのインタロックに使用します。
電源投入後，本信号がONされます。中度，重度エラーが発生したときに本信号はOFFされます。

■警報出力信号(RX1E)

デジタル値がCH□ 警報出力上限値/下限値(0108H~0117H)に設定した警報出力範囲に入ると，本信号がONされます。
(☞ 131ページ 警報出力機能)
CH□ D/A変換許可/禁止設定(リモートバッファメモリ0102H)で許可したチャンネルのうち1チャンネルでもデジタル値が警報出力範囲に入ると，本信号と警報出力フラグ(RWrA)の該当ビットがONされ，最新アラームコード(RWr1)にアラームコードが格納されます。(☞ 305ページ FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Yのアラームコード)
本信号は下記の場合にOFFされます。

- 全チャンネルのデジタル値が警報出力範囲から正常に戻った後，エラークリア要求フラグ(RYA)のOFF→ON→OFF
- 全チャンネルのデジタル値が警報出力範囲から正常に戻った後，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)のOFF→ON→OFF

リモート出力信号(RY)の詳細

また，本信号をONすると，一部のエラーがクリアされます。クリアされるエラーは，下記を参照してください。
☞ 298ページ FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8Xのエラーコード
動作条件の設定・変更が完了すると，イニシャルデータ設定完了フラグ(RX9)がONされます。(☞ 31ページ イニシャルデータ設定完了フラグ(RX9))

■イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)

FA3-ATでは，ネットワークインタフェースユニットの動作条件を設定・変更するとき，リモートバッファメモリにパラメータを書き込んだあと，本信号をONすることでパラメータが有効になります。
また，本信号をONすると，一部のエラーがクリアされます。クリアされるエラーは，下記を参照してください。
☞ 301ページ FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Yのエラーコード
動作条件の設定・変更が完了すると，イニシャルデータ設定完了フラグ(RX9)がONされます。(☞ 36ページ イニシャルデータ設定完了フラグ(RX9))

■エラークリア要求フラグ(RYA)

エラーまたはアラームの要因を取り除いてから本信号をOFF→ONすると，エラー状態フラグ(RXA)がOFFされて，下記がクリアされます。(☞ 37ページ エラー状態フラグ(RXA))

- 最新エラーコード(RWr0)*1
- 最新アラームコード(RWr1)
- 警報出力信号(RX1E)

*1　重度エラーの場合は，本信号をONしても，エラー状態フラグ(RXA)はOFFになりません。

エラーとアラームについては，下記を参照してください。
☞ 301ページ FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Yのエラーコード，☞ 305ページ FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Yのアラームコード
エラー状態フラグ(RXA)がOFFする前に，本信号をON→OFFすると，エラー状態フラグ(RXA)がOFFされません。
本信号をONしてもエラー履歴はクリアされません。

■CH□ 出力許可/禁止フラグ(RY10~RY17)

チャンネルごとに，D/A変換値を出力するか，オフセット値を出力するかを設定します。
ON:　D/A変換値
OFF:　オフセット値(☞ 25ページ FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Y)

3.5 リモートレジスタ

リモートレジスタの割付けおよびデータ構成について説明します。

FA3-TH1T16XC，FA3-TH1M16XC

リモートレジスタの一覧

信号方向: スレーブ→マスタ			信号方向: マスタ→スレーブ		
デバイスNo.	名称	デフォルト	デバイスNo.	名称	デフォルト
RWr0	最新エラーコード	0	RWw0	ユニット操作エリア	0
RWr1	最新アラームコード	0	RWw1	使用禁止	
RWr2	機能選択状態エリア	0	RWw2		
RWr3	使用禁止		RWw3		
RWr4			RWw4		
RWr5			RWw5		
RWr6	動作履歴記録状態	0	RWw6	動作履歴記録有効/無効設定	0
RWr7~4F	使用禁止		RWw7~4F	使用禁止	

Point

使用禁止のリモートレジスタは，使用しないでください。使用した場合，正常に動作しない場合があります。
リモートレジスタの情報は，ネットワークインタフェースユニットの電源をON→OFF→ONするとデフォルト値に戻ります。

リモートレジスタ(RWr)の詳細

■最新エラーコード(RWr0)

エラー発生時にエラーコードが格納されます。(☞ 296ページ FA3-THのエラーコード)
過去に発生したエラーはエラー履歴にて確認できます。(☞ 92ページ エラー履歴機能)

■最新アラームコード(RWr1)

アラーム発生時にアラームコードが格納されます。(☞ 303ページ FA3-TH1T16XC，FA3-TH1M16XCのアラームコード)
過去に発生したアラームはエラー履歴にて確認できます。(☞ 92ページ エラー履歴機能)

■機能選択状態エリア(RWr2)

・ 入力応答時間設定状態(b0~b2)

入力応答時間設定機能の設定状態を示します。(☞ 109ページ 入力応答時間設定機能)
状態確定タイミング: 起動時

b0~b2の値			入力応答時間
b2	b1	b0	
OFF	OFF	OFF	1ms
OFF	OFF	ON	0ms
OFF	ON	OFF	0.2ms
OFF	ON	ON	1.5ms
ON	OFF	OFF	5ms
ON	OFF	ON	10ms
ON	ON	OFF	20ms
ON	ON	ON	70ms

・ 通信速度設定状態(b8)

CC-Link IE TSNの通信速度の設定状態を示します。
状態確定タイミング: 起動時

b8の値	通信速度
OFF	1Gbps
ON	100Mbps

■動作履歴記録状態(RWr6)

動作履歴記録の実行状態が格納されます。(☞ 100ページ 動作履歴記録機能(FA3-TH))

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWr6	XF	XE	XD	XC	XB	XA	X9	X8	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0

0: 実行中
1: 未実行

リモートレジスタ(RWw)の詳細

■ユニット操作エリア(RWw0)

・エラークリア要求フラグ(b10)

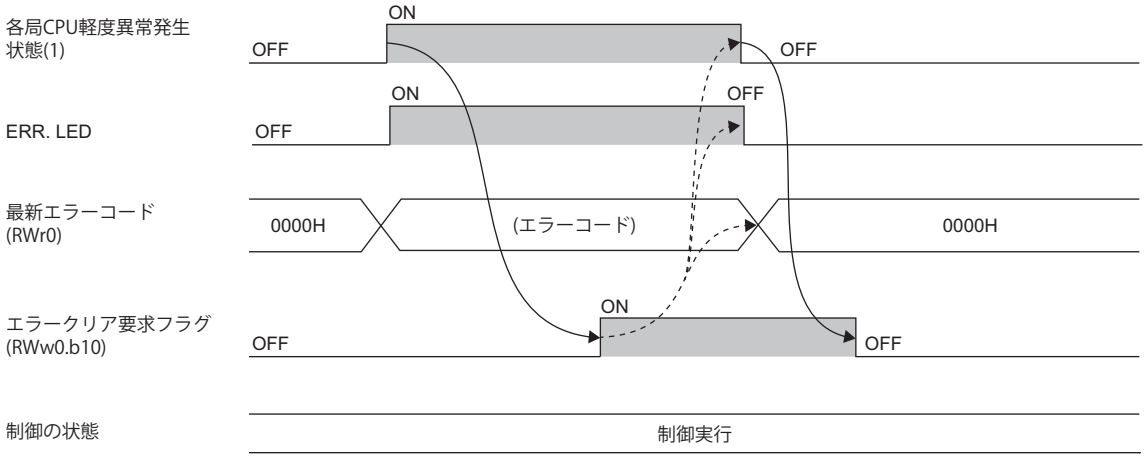
エラーまたはアラームの要因を取り除いてからエラークリア要求フラグ(b10)をOFF→ONすると，最新エラーコード(RWr0)と最新アラームコード(RWr1)がクリアされます。

エラーとアラームについては，下記を参照してください。

☞ 296ページ FA3-THのエラーコード

☞ 303ページ FA3-TH1T16XC，FA3-TH1M16XCのアラームコード

軽度エラーの場合(各局CPU軽度異常発生時)の動作を示します。

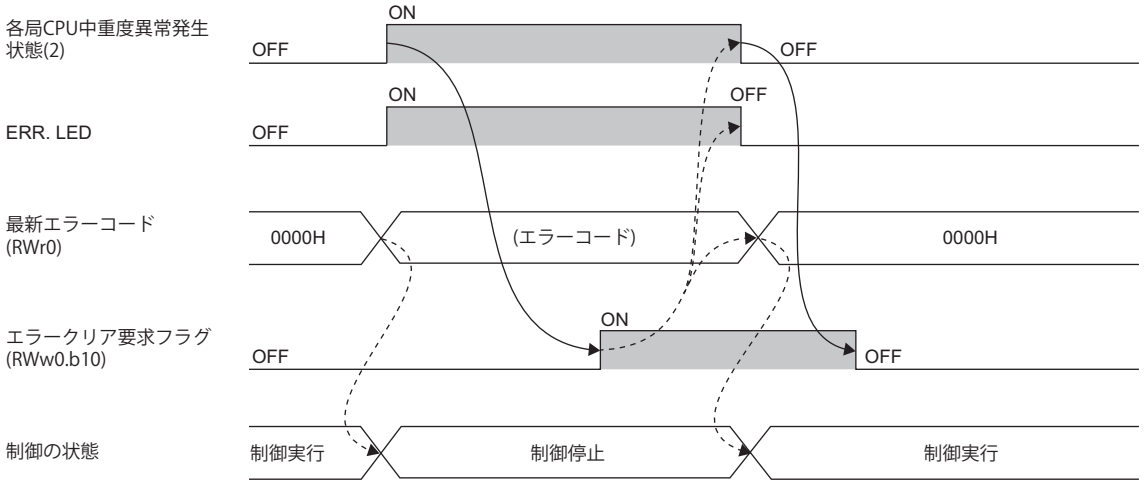


- - - - - - - - ▶ ネットワークインタフェースユニットで実施

―――――― ▶ プログラムで実施

(1) マスタ局のSW0110~SW0117(各局CPU軽度異常発生状態)における対象局のビットを使用してください。

中度エラーの場合(各局CPU中度異常発生時)の動作を示します。



- - - - - - - - ▶ ネットワークインタフェースユニットで実施

―――――― ▶ プログラムで実施

(2)マスタ局のSW0100~SW0107(各局CPU中度異常発生状態)における対象局のビットを使用してください。

■動作履歴記録有効/無効設定(RWw6)

動作履歴記録の有効/無効を設定します。(☞ 100ページ 動作履歴記録機能(FA3-TH))

信号に対応するビットを0(有効)にすると，動作履歴記録を開始します。動作履歴記録を停止する場合は，信号に対応するビットを1(無効)にしてください。

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWw6	XF	XE	XD	XC	XB	XA	X9	X8	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0

0: 有効

1: 無効

FA3-TH1T16Y，FA3-TH1T16YE，FA3-TH1M16Y，FA3-TH1M16YE

リモートレジスタの一覧

信号方向: スレーブ→マスタ			信号方向: マスタ→スレーブ		
デバイスNo.	名称	デフォルト	デバイスNo.	名称	デフォルト
RWr0	最新エラーコード	0	RWw0	ユニット操作エリア	0
RWr1	最新アラームコード	0	RWw1	使用禁止	
RWr2	機能選択状態エリア	0	RWw2		
RWr3	使用禁止		RWw3		
RWr4			RWw4		
RWr5			RWw5		
RWr6	動作履歴記録状態	0	RWw6	動作履歴記録有効/無効設定	0
RWr7	使用禁止		RWw7	使用禁止	
RWr8			RWw8		
RWr9			RWw9		
RWrA	Y出力現在値 Y0~YF	0	RWwA		
RWrB	使用禁止		RWwB		
RWrC	Y出力ON情報 Y0~YF	0	RWwC	Y出力ON情報クリア要求 Y0~YF	0
RWrD	使用禁止		RWwD	使用禁止	
RWrE	Y出力OFF情報 Y0~YF	0	RWwE	Y出力OFF情報クリア要求 Y0~YF	0
RWrF~4F	使用禁止		RWwF~4F	使用禁止	

Point

使用禁止のリモートレジスタは，使用しないでください。使用した場合，正常に動作しない場合があります。
リモートレジスタの情報は，ネットワークインタフェースユニットの電源をON→OFF→ONするとデフォルト値に戻ります。

リモートレジスタ(RWr)の詳細

■最新エラーコード(RWr0)

エラー発生時にエラーコードが格納されます。(☞ 296ページ FA3-THのエラーコード)
過去に発生したエラーはエラー履歴にて確認できます。(☞ 92ページ エラー履歴機能)

■最新アラームコード(RWr1)

アラーム発生時にアラームコードが格納されます。(☞ 304ページ FA3-TH1T16Y，FA3-TH1T16YE，FA3-TH1M16Y，FA3-TH1M16YEのアラームコード)
過去に発生したアラームはエラー履歴にて確認できます。(☞ 92ページ エラー履歴機能)

■機能選択状態エリア(RWr2)

- 出力HOLD/CLEAR設定状態(b3)

出力HOLD/CLEAR設定機能の設定状態を示します。(☞ 110ページ 出力HOLD/CLEAR設定機能)

b3の値	出力HOLD/CLEAR設定
OFF	CLEAR
ON	HOLD

- 通信速度設定状態(b8)

CC-Link IE TSNの通信速度の設定状態を示します。(状態確定タイミング: 起動時)

b8の値	通信速度
OFF	1Gbps
ON	100Mbps

■動作履歴記録状態(RWr6)

動作履歴記録の実行状態を格納します。(☞ 100ページ 動作履歴記録機能(FA3-TH))

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWr6	YF	YE	YD	YC	YB	YA	Y9	Y8	Y7	Y6	Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0

0: 実行中
1: 未実行

■Y出力現在値 Y0~YF(RWrA)

Y出力現在値を使用すると，Y出力の実際のON/OFF状態を確認できます。Y出力現在値はデータリンク中には常時使用できます。Y出力現在値が変化してから外部出力が変化するまでの時間には，最大で出力応答時間分の遅れがあります。

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrA	YF	YE	YD	YC	YB	YA	Y9	Y8	Y7	Y6	Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0

0: X出力がOFF
1: Y出力がON

■Y出力ON情報 Y0~YF(RWrC)

Y出力ON情報を使用すると，Y出力が一度でもONしたかどうかを確認できます。(☞ 111ページ 出力ON/OFF情報保持機能)

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrC	YF	YE	YD	YC	YB	YA	Y9	Y8	Y7	Y6	Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0

0: Y出力が一度もONしていない。
1: Y出力がONした。

■Y出力OFF情報 Y0~YF(RWrE)

Y出力OFF情報を使用すると，Y出力が一度でもOFFしたかどうかを確認できます。(☞ 111ページ 出力ON/OFF情報保持機能)

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrE	YF	YE	YD	YC	YB	YA	Y9	Y8	Y7	Y6	Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0

0: Y出力が一度もOFFしていない。
1: Y出力がOFFした。

リモートレジスタ(RWw)の詳細

■ユニット操作エリア(RWw0)

・エラークリア要求フラグ(b10)

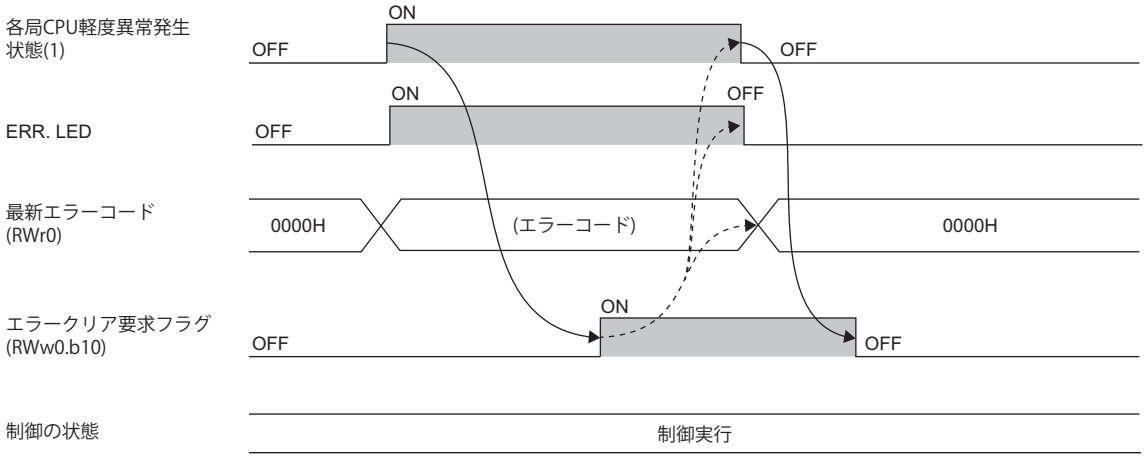
エラーまたはアラームの要因を取り除いてからエラークリア要求フラグ(b10)をOFF→ONすると，最新エラーコード(RWr0)と最新アラームコード(RWr1)がクリアされます。

エラーとアラームについては，下記を参照してください。

☞ 296ページ FA3-THのエラーコード

☞ 304ページ FA3-TH1T16Y，FA3-TH1T16YE，FA3-TH1M16Y，FA3-TH1M16YEのアラームコード

軽度エラーの場合(各局CPU軽度異常発生時)の動作を示します。

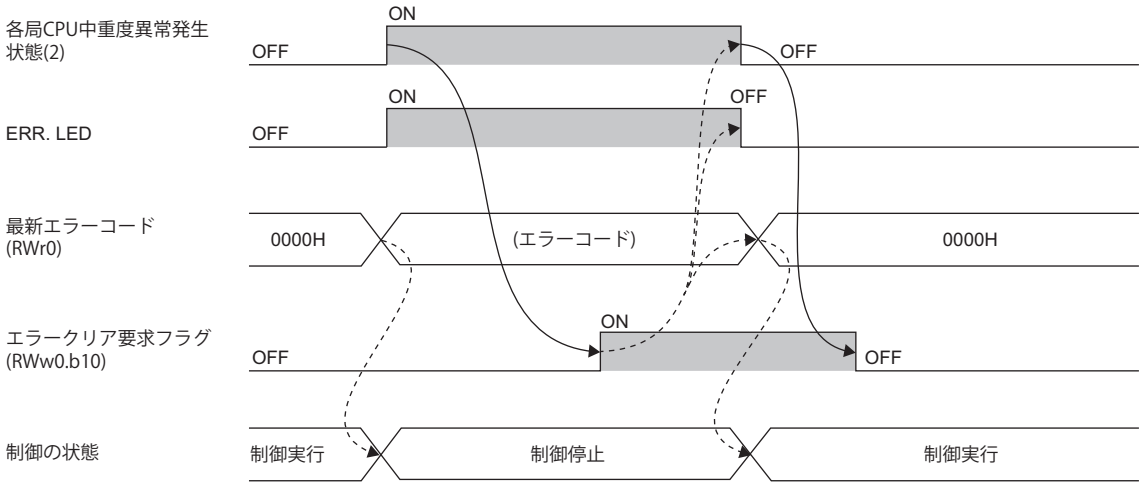


- - - - - - - - - ▶ ネットワークインタフェースユニットで実施

―――――― ▶ プログラムで実施

(1) マスタ局のSW0110~SW0117(各局CPU軽度異常発生状態)における対象局のビットを使用してください。

中度エラーの場合(各局CPU中度異常発生時)の動作を示します。



- - - - - - - - - ▶ ネットワークインタフェースユニットで実施

―――――― ▶ プログラムで実施

(2) マスタ局のSW0100~SW0107(各局CPU中度異常発生状態)における対象局のビットを使用してください。

■動作履歴記録有効/無効設定(RWw6)

動作履歴記録の有効/無効を設定します。(☞ 100ページ 動作履歴記録機能(FA3-TH))

信号に対応するビットをOFF(有効)にすると，動作履歴記録を開始します。動作履歴記録を停止する場合は，信号に対応するビットをON(無効)にしてください。

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWr6	YF	YE	YD	YC	YB	YA	Y9	Y8	Y7	Y6	Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0

0: 有効

1: 無効

■Y出力ON情報クリア要求 Y0~YF(RWwC)

Y出力ON情報 Y0~YF(RWrC)に格納されたY出力ON情報をクリアするときに使用します。(☞ 111ページ 出力ON/OFF情報保持機能)

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrC	YF	YE	YD	YC	YB	YA	Y9	Y8	Y7	Y6	Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0

0: Y出力ON情報をクリアしない。

1: Y出力ON情報をクリアする。

■Y出力OFF情報クリア要求 Y0~YF(RWwE)

Y出力OFF情報 Y0~YF(RWrE)に格納されたY出力OFF情報をクリアするときに使用します。(☞ 111ページ 出力ON/OFF情報保持機能)

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrE	YF	YE	YD	YC	YB	YA	Y9	Y8	Y7	Y6	Y5	Y4	Y3	Y2	Y1	Y0

0: Y出力OFF情報をクリアしない。

1: Y出力OFF情報をクリアする。

FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8X

リモートレジスタの一覧

信号方向: スレーブ→マスタ			信号方向: マスタ→スレーブ		
デバイスNo.	名称	デフォルト	デバイスNo.	名称	デフォルト
RWr0	最新エラーコード	0	RWw0	使用禁止	
RWr1	最新アラームコード	0	RWw1		
RWr2	CH1 デジタル演算値	0	RWw2	CH1 変換値シフト量	0
RWr3	CH2 デジタル演算値	0	RWw3	CH2 変換値シフト量	0
RWr4	CH3 デジタル演算値	0	RWw4	CH3 変換値シフト量	0
RWr5	CH4 デジタル演算値	0	RWw5	CH4 変換値シフト量	0
RWr6	CH5 デジタル演算値	0	RWw6	CH5 変換値シフト量	0
RWr7	CH6 デジタル演算値	0	RWw7	CH6 変換値シフト量	0
RWr8	CH7 デジタル演算値	0	RWw8	CH7 変換値シフト量	0
RWr9	CH8 デジタル演算値	0	RWw9	CH8 変換値シフト量	0
RWrA	入力信号異常検出フラグ	0	RWwA	使用禁止	
RWrB	警報出力フラグ	0	RWwB		
RWrC	ロギング実行状態	0	RWwC	ロギング実行フラグ	0
RWrD~RWr1F	使用禁止		RWwD~RWw1F	使用禁止	

Point

使用禁止のリモートレジスタは，使用しないでください。使用した場合，正常に動作しない場合があります。
リモートレジスタの情報は，ネットワークインタフェースユニットの電源をON→OFF→ONするとデフォルト値に戻ります。

リモートレジスタ(RWr)の詳細

■最新エラーコード(RWr0)

エラー発生時にエラーコードが格納されます。(☞ 304ページ FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8Xのアラームコード)
過去に発生したエラーはエラー履歴にて確認できます。(☞ 92ページ エラー履歴機能)

■最新アラームコード(RWr1)

アラーム発生時にアラームコードが格納されます。(☞ 304ページ FA3-AT1T8X，FA3-AT1M8Xのアラームコード)
過去に発生したアラームはエラー履歴にて確認できます。(☞ 92ページ エラー履歴機能)

■CH□ デジタル演算値(RWr2~RWr9)

スケーリング機能，シフト機能を使用した場合，デジタル演算値にはスケール換算，シフト加算した値が16ビット符号付きバイナリで格納されます。

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWr2~RWr9	符号ビット	データ部														

符号ビットが0: 正
符号ビットが1: 負

■入力信号異常検出フラグ(RWrA)

アナログ入力値が0.5V以下または5.5V以上になると入力信号異常を検出し，該当チャンネルのビットがONされます。
(☞ 117ページ 入力信号異常検出機能)

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrA	CH8	0	CH7	0	CH6	0	CH5	0	CH4	0	CH3	0	CH2	0	CH1	0

0: 正常
1: 異常検出
全チャンネルが正常に戻った後，エラークリア要求フラグ(RYA)またはイニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFするとクリアされます。

■警報出力フラグ(RWrB)

デジタル演算値があらかじめ設定した警報出力範囲に入ると，該当チャンネルのビットがONされます。(☞ 119ページ 警報出力機能(プロセスアラーム))

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrB	CH8 下限	CH8 上限	CH7 下限	CH7 上限	CH6 下限	CH6 上限	CH5 下限	CH5 上限	CH4 下限	CH4 上限	CH3 下限	CH3 上限	CH2 下限	CH2 上限	CH1 下限	CH1 上限

0: 正常
1: 警報発生
警報出力後，デジタル演算値が警報出力範囲から正常に戻ると，該当ビットがOFFされます。

■ロギング実行状態(RWrC)

ロギングの実行状態を格納します。(☞ 101ページ ロギング機能(FA3-AT))

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrC	—	—	—	—	—	—	—	—	CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 実行中
1: 未実行

リモートレジスタ(RWw)の詳細

■CH□ 変換値シフト量(RWw2~RWw9)

値が設定されると，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)のOFF→ON→OFFに関係なく，設定した変換値シフト量が有効になります。(☞ 124ページ シフト機能)
設定可能範囲は，-32768~32767です。デフォルトは0に設定されています。
設定した変換値シフト量は，CH□ デジタル演算値(RWr2~RWr9)に反映されます。

Point

変換値シフト量が加算されたデジタル演算値が-32768~32767の範囲を超える場合には，下限値(-32768)，または上限値(32767)で固定されます。

■ロギング実行フラグ(RWwC)

ロギングの有効/無効を設定します。(☞ 101ページ ロギング機能(FA3-AT))

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWwC	—	—	—	—	—	—	—	—	CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 有効(デフォルト)
1: 無効
該当チャンネルのビットを0(有効)にすると，ロギングを開始します。ロギングを停止する場合は，該当チャンネルのビットを1(無効)にしてください。
ロギングの有効/無効は即時反映されますが，CH□ ロギングデータ設定，CH□ ロギング周期設定，CH□ ロギング周期単位設定の値を変更するためにはイニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFする必要があります。また，設定エラーが発生している場合は有効になりません。

FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Y

リモートレジスタの一覧

信号方向: スレーブ→マスタ			信号方向: マスタ→スレーブ		
デバイスNo.	名称	デフォルト	デバイスNo.	名称	デフォルト
RWr0	最新エラーコード	0	RWw0	使用禁止	
RWr1	最新アラームコード	0	RWw1		
RWr2	CH1 設定値チェックコード	0	RWw2	CH1 デジタル値	0
RWr3	CH2 設定値チェックコード	0	RWw3	CH2 デジタル値	0
RWr4	CH3 設定値チェックコード	0	RWw4	CH3 デジタル値	0
RWr5	CH4 設定値チェックコード	0	RWw5	CH4 デジタル値	0
RWr6	CH5 設定値チェックコード	0	RWw6	CH5 デジタル値	0
RWr7	CH6 設定値チェックコード	0	RWw7	CH6 デジタル値	0
RWr8	CH7 設定値チェックコード	0	RWw8	CH7 デジタル値	0
RWr9	CH8 設定値チェックコード	0	RWw9	CH8 デジタル値	0
RWrA	警報出力フラグ	0	RWwA	使用禁止	
RWrB	使用禁止		RWwB		
RWrC	ロギング実行状態	0	RWwC	ロギング実行フラグ	0
RWrD~RWr1F	使用禁止		RWwD~RWw1F	使用禁止	

Point

使用禁止のリモートレジスタは，使用しないでください。使用した場合，正常に動作しない場合があります。
リモートレジスタの情報は，ネットワークインタフェースユニットの電源をON→OFF→ONするとデフォルト値に戻ります。

リモートレジスタ(RWr)の詳細

■最新エラーコード(RWr0)

エラー発生時にエラーコードが格納されます。(☞ 301ページ FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Yのエラーコード)
過去に発生したエラーはエラー履歴にて確認できます。(☞ 92ページ エラー履歴機能)

■最新アラームコード(RWr1)

アラーム発生時にアラームコードが格納されます。(☞ 305ページ FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Yのアラームコード)
過去に発生したアラームはエラー履歴にて確認できます。(☞ 92ページ エラー履歴機能)

■CH□ 設定値チェックコード(RWr2~RWr9)

CH□ デジタル値(RWw2~RWw9)に設定可能範囲外のデジタル値が書き込まれた場合，チェックコードが格納されます。
設定可能範囲外のデジタル値が書き込まれたときのチェックコードを示します。

チェックコード	内容
000FH	設定可能範囲を超えるデジタル値が書き込まれた。
00F0H	設定可能範囲に満たないデジタル値が書き込まれた。
00FFH	設定可能範囲に満たないデジタル値，および設定可能範囲を超えるデジタル値が書き込まれた。 たとえば，設定可能範囲を超えるデジタル値を書き込んだ後，チェックコードをクリアせずに設定可能範囲に満たないデジタル値を書き込むと00FFHのチェックコードが格納されます。

デフォルトは0000H(設定可能範囲内)が格納されています。
一度格納されたチェックコードは，デジタル値が設定可能範囲内になってもクリアされません。
設定値チェックコードのクリアには，下記の方法があります。

- デジタル値を設定可能範囲内の値に書き換えてから，エラークリア要求フラグ(RYA)をOFF→ON→OFFしてください。
- デジタル値を設定可能範囲内の値に書き換えてから，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFしてください。

■警報出力フラグ(RWrA)

デジタル値があらかじめ設定した警報出力範囲に入ると，該当チャンネルのビットがONされます。(☞ 131ページ 警報出力機能)

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrA	CH8 下限	CH8 上限	CH7 下限	CH7 上限	CH6 下限	CH6 上限	CH5 下限	CH5 上限	CH4 下限	CH4 上限	CH3 下限	CH3 上限	CH2 下限	CH2 上限	CH1 下限	CH1 上限

0: 正常
1: 警報発生
全チャンネルが正常に戻った後，エラークリア要求フラグ(RYA)またはイニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFするとクリアされます。

■ロギング実行状態(RWrC)

ロギングの実行状態を格納します。(☞ 101ページ ロギング機能(FA3-AT))

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWrC	—	—	—	—	—	—	—	—	CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 実行中
1: 未実行

リモートレジスタ(RWw)の詳細

■CH□ デジタル値(RWw2~RWw9)

CPUユニットから，D/A変換を行うためのデジタル値を，16ビット符号付きバイナリで書き込むエリアです。

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWw2~RWw9	符号ビット	データ部														

符号ビットが0: 正(デフォルト)
符号ビットが1: 負
デジタル値の範囲を示します。

設定可能範囲	設定可能範囲外の値を書き込んだときのデジタル値
-384~16383 (実用範囲: 0~16000)	16384以上: 16383 -385以下: -384

設定可能範囲外の値を書き込んだ場合，下記の動作となります。

- 設定可能範囲の上限値または下限値でD/A変換が行われます。
- CH□ 設定値チェックコード(RWr2~RWr9)にチェックコードが格納されます。
- 最新エラーコード(RWr0)にエラーコード(190□H)が格納されます。

スケーリング有効/無効設定が有効に設定されている場合，スケール換算されたデジタル値が設定可能範囲となります。

■ロギング実行フラグ(RWwC)

ロギングの有効/無効を設定します。(☞ 101ページ ロギング機能(FA3-AT))
該当チャンネルのビットを0(有効)にすると，ロギングを開始します。ロギングを停止するときは，該当チャンネルのビットを1(無効)にしてください。

デバイスNo.	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
RWwC	—	—	—	—	—	—	—	—	CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 有効(デフォルト)
1: 無効

3.6 リモートバッファメモリ

リモートバッファメモリには，電源投入時にデフォルト値または不揮発性メモリに保存された内容がセットされます。
(☞ 53ページ 不揮発性メモリへの保存)
ただし，CC-Link IE TSNでスレーブ局パラメータ自動設定が有効な場合は，マスタ局から自動設定されます。(☞ 137ページ スレーブ局パラメータ自動設定)

アクセス方法

■CC-Link IE TSN

マスタ局で下記の専用命令を使用します。
専用命令が異常完了し，マスタ局のリンク特殊レジスタのREMFR/REMTO命令実施状態に4041Hが格納された場合は，アドレスとワード数を見直してください。

分類	専用命令	内容
読出し	REMFR	リモートバッファメモリから，ワード単位でデータを読み出します。(16ビットアドレス指定)
	REMFRD	リモートバッファメモリから，ワード単位でデータを読み出します。(32ビットアドレス指定)
書込み	REMTO	リモートバッファメモリに，ワード単位でデータを書き込みます。(16ビットアドレス指定)
	REMTOD	リモートバッファメモリに，ワード単位でデータを書き込みます。(32ビットアドレス指定)

注意事項

1台のネットワークインタフェースユニットに対して，同時に複数の専用命令を実行しないでください。同時に複数の専用命令を実行すると，ネットワークインタフェースユニットが専用命令を受信できず，専用命令がタイムアウトすることがあります。

■CC-Link IEフィールドネットワーク，CC-Link IEフィールドネットワークBasic

マスタ局で専用命令を使用します。
- CC-Link IEフィールドネットワーク: ☞ 173ページ 専用命令による交信
- CC-Link IEフィールドネットワークBasic: ☞ 197ページ SLMP通信機能

■SLMP

マスタ局でSLMPコマンドを使用します。(☞ 238ページ SLMPコマンド)

■MODBUS/TCP

マスタ局でファンクションを使用します。(☞ 266ページ ファンクションコードとデータ)
なお，MODBUSデバイスとして指定できるリモートバッファメモリは一部異なります。(☞ 267ページ MODBUSデバイス)

不揮発性メモリへの保存

下記で◎のリモートバッファメモリの内容は，ネットワークインタフェースユニットの不揮発性メモリに自動保存され，パラメータは有効になります。
下記で○のリモートバッファメモリの内容は，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFすることでネットワークインタフェースユニットの不揮発性メモリに保存され，パラメータは有効になります。
◎○いずれの場合でも，不揮発性メモリに保存されたリモートバッファメモリの内容はネットワークインタフェースユニットを再起動しても保持され，パラメータは有効なままです。
◎: 自動保存，○: イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)のOFF→ON→OFFで保存，—: 保存されない(設定は可能)，×: 対象外

形名	リモートバッファメモリ	CC-Link IE TSN	CC-Link IEフィールドネットワーク	CC-Link IEフィールドネットワークBasic	SLMP	MODBUS/TCP
全機種共通	次回起動時IPアドレス設定(0000H，0001H)	◎	×	◎	◎	◎*1
	稼働経過時間(3B80H，3B81H)	◎	◎	◎	◎	◎
	稼働経過時間閾値設定(4122H，4123H)	—	◎	—	—	◎
	稼働開始年月日(3B82H~3B86H)	◎	◎	◎	◎	◎
	最新エラー履歴ポインタ(3BA0H)	◎	◎	◎	◎	◎
	エラー履歴1~16(3BA2H~3BB2H，...，3CA1H~3CB1H)	◎	◎	◎	◎	◎
	生存確認開始間隔タイマ(00F2H)	×	×	×	×	◎
	生存確認間隔タイマ(00F3H)	×	×	×	×	◎
	生存確認回数(00F4H)	×	×	×	×	◎
	分割受信監視タイマ(00F5H)	×	×	×	×	◎
FA3-TH1T16XC FA3-TH1M16XC	X/Y□ リレー ON回数(3B60H~3B61H，...，3B7EH~3B7FH)	◎	◎	◎	◎	◎
	X/Y□ リレー ON回数閾値設定(4100H~4101H，...，411EH~411FH)	—	◎	—	—	◎
	リレー ON回数閾値有効/無効設定(4120H)	—	◎	—	—	◎
	入力応答時間設定(0100H)	—	◎	—	—	◎
FA3-TH1T16Y FA3-TH1M16Y FA3-TH1T16YE FA3-TH1M16YE	X/Y□ リレー ON回数(3B60H~3B61H，...，3B7EH~3B7FH)	◎	◎	◎	◎	◎
	X/Y□ リレー ON回数閾値設定(4100H~4101H，...，411EH~411FH)	—	◎	—	—	◎
	リレー ON回数閾値有効/無効設定(4120H)	—	◎	—	—	◎
	出力HOLD/CLEAR設定(0101H)	—	◎	—	—	◎
FA3-AT1T8X FA3-AT1M8X	CH□ A/D変換許可/禁止設定(0102H)	—	○	—	—	○
	CH□ 平均処理指定(0105H，0106H)	—	○	—	—	○
	CH□ 平均時間/平均回数/移動平均設定(0107H~010EH)	—	○	—	—	○
	CH□ 入力信号異常検出設定(010FH，0110H)	—	○	—	—	○
	CH□ 警報出力設定(0111H)	—	○	—	—	○
	CH□ プロセスアラーム上限値/下限値(0112H~0131H)	—	○	—	—	○
	CH□ デジタルクリップ有効/無効設定(0132H)	—	○	—	—	○
	CH□ スケーリング有効/無効設定(0133H)	—	○	—	—	○
	CH□ スケーリング上限値/下限値(0134H~0143H)	—	○	—	—	○
FA3-AT1T8Y FA3-AT1M8Y	CH□ D/A変換許可/禁止設定(0102H)	—	○	—	—	○
	CH□ アナログ出力HOLD/CLEAR設定(0105H，0106H)	—	○	—	—	○
	CH□ 警報出力設定(0107H)	—	○	—	—	○
	CH□ 警報出力上限値/下限値(0108H~0117H)	—	○	—	—	○
	CH□ スケーリング有効/無効設定(0118H)	—	○	—	—	○
	CH□ スケーリング上限値/下限値(0119H~0128H)	—	○	—	—	○

*1　MODBUS/TCPで使用するリモートバッファメモリのアドレスは(MODBUSデバイス: 保持レジスタ，アドレス: 00F0H~00F1H)です。

FA3-TH1T16XC，FA3-TH1M16XC

リモートバッファメモリ一覧(パラメータエリア)

R: 読出し可，W: 書込み可

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
局単位パラメータデータ	0000H	0	次回起動時IPアドレス設定(第3，第4オクテット)	☞ 55ページ 次回起動時IPアドレス設定(0000H，0001H)	03FAH (3.250)	R/W
	0001H	1	次回起動時IPアドレス設定(第1，第2オクテット)		C0A8H (192.168)	
	0002H~00FFH	2~255	使用禁止		—	—
ユニット単位パラメータデータ	0100H	256	☞ 56ページ 入力応答時間設定(0100H)		0000H	R/W
	0101H	257	使用禁止		—	—
	0102H~01FFH	258~511	使用禁止		—	—
—	0200H~02FFH	512~767	使用禁止		—	—

リモートバッファメモリ一覧(モニタエリア，制御エリア)

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
ユニット単位モニタデータ	0300H~3B5FH	768~15199	使用禁止		—	—
	3B60H，3B61H	15200，15201	X0 リレー ON回数	☞ 56ページ X□ リレー ON回数(3B60H~3B61H，...，3B7EH~3B7FH)	00000000H	R
	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮
	3B7EH，3B7FH	15230，15231	XF リレー ON回数		00000000H	R
	3B80H，3B81H	15232，15233	☞ 56ページ 稼働経過時間(3B80H，3B81H)		00000000H	R
	3B82H~3B86H	15234~15238	☞ 56ページ 稼働開始年月日(3B82H~3B86H)		0	R
	3B87H~3B8FH	15239~15247	使用禁止		—	—
	3B90H	15248	☞ 56ページ パラメータ自動設定状態モニタ(3B90H)		0000H	R
	3B91H~3B9FH	15249~15263	使用禁止		—	—
	3BA0H	15264	☞ 56ページ 最新エラー履歴ポインタ(3BA0H)		FFFFH	R
	3BA1H	15265	使用禁止		—	—
	3BA2H~3BB2H	15266~15282	エラー履歴1(最新エラー履歴ポインタが0のとき最新)*1	☞ 56ページ エラー履歴1~16(3BA2H~3BB2H，...，3CA1H~3CB1H)	0000H	R
	3BB3H~3BC3H	15283~15299	エラー履歴2(最新エラー履歴ポインタが1のとき最新)*1		0000H	R
	3BC4H~3BD4H	15300~15316	エラー履歴3(最新エラー履歴ポインタが2のとき最新)*1		0000H	R
	3BD5H~3BE5H	15317~15333	エラー履歴4(最新エラー履歴ポインタが3のとき最新)*1		0000H	R
	3BE6H~3BF6H	15334~15350	エラー履歴5(最新エラー履歴ポインタが4のとき最新)*1		0000H	R
	3BF7H~3C07H	15351~15367	エラー履歴6(最新エラー履歴ポインタが5のとき最新)*1		0000H	R
	3C08H~3C18H	15368~15384	エラー履歴7(最新エラー履歴ポインタが6のとき最新)*1		0000H	R
	3C19H~3C29H	15385~15401	エラー履歴8(最新エラー履歴ポインタが7のとき最新)*1		0000H	R
	3C2AH~3C3AH	15402~15418	エラー履歴9(最新エラー履歴ポインタが8のとき最新)*1		0000H	R
	3C3BH~3C4BH	15419~15435	エラー履歴10(最新エラー履歴ポインタが9のとき最新)*1		0000H	R
	3C4CH~3C5CH	15436~15452	エラー履歴11(最新エラー履歴ポインタが10のとき最新)*1		0000H	R
	3C5DH~3C6DH	15453~15469	エラー履歴12(最新エラー履歴ポインタが11のとき最新)*1		0000H	R
	3C6EH~3C7EH	15470~15486	エラー履歴13(最新エラー履歴ポインタが12のとき最新)*1		0000H	R
	3C7FH~3C8FH	15487~15503	エラー履歴14(最新エラー履歴ポインタが13のとき最新)*1		0000H	R
	3C90H~3CA0H	15504~15520	エラー履歴15(最新エラー履歴ポインタが14のとき最新)*1		0000H	R
	3CA1H~3CB1H	15521~15537	エラー履歴16(最新エラー履歴ポインタが15のとき最新)*1		0000H	R
	3CB2H~3FFFH	15538~16383	使用禁止		—	—
局単位制御データ	4000H，4001H	16384，16385	使用禁止		—	—
	4002H	16386	☞ 56ページ パラメータエリア初期化指令(4002H)		0	R/W
	4003H	16387	☞ 57ページ パラメータエリア初期化完了(4003H)		0	R
	4004H~40FFH	16388~16639	使用禁止		—	—

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
ユニット単位制御データ	4100H，4101H	16640，16641	X0 リレー ON回数閾値設定	☞ 57ページ X□ リレー ON回数閾値設定(4100H~4101H，…，411EH~411FH)	00000000H	R/W
	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮
	411EH，411FH	16670，16671	XF リレー ON回数閾値設定		00000000H	R/W
	4120H	16672	☞ 57ページ リレー ON回数閾値有効/無効設定(4120H)		0000H	R/W
	4121H	16673	☞ 57ページ リレー ON回数リセットフラグ(4121H)		0000H	R/W
	4122H，4123H	16674，16675	☞ 57ページ 稼働経過時間閾値設定(4122H，4123H)		00000000H	R/W
	4124H	16676	☞ 57ページ 稼働経過時間リセットフラグ(4124H)		0000H	R/W
	4125H	16677	☞ 57ページ 稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)		0000H	R/W
	4126H~4FFFH	16678~20479	使用禁止		—	—

*1　CC-Link IEフィールドネットワークでは常にエラー履歴1が最新です。(☞ 56ページ 最新エラー履歴ポインタ(3BA0H))

制約事項

R/Wの欄がRのみになっている項目には書き込まないでください。書き込んだ場合は動作を保証できません。

リモートバッファメモリ詳細

■次回起動時IPアドレス設定(0000H，0001H)

次回起動時IPアドレスの設定状態を示します。(CC-Link IEフィールドネットワークでは無効です)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0000H	第3オクテット								第4オクテット							
0001H	第1オクテット								第2オクテット							

例

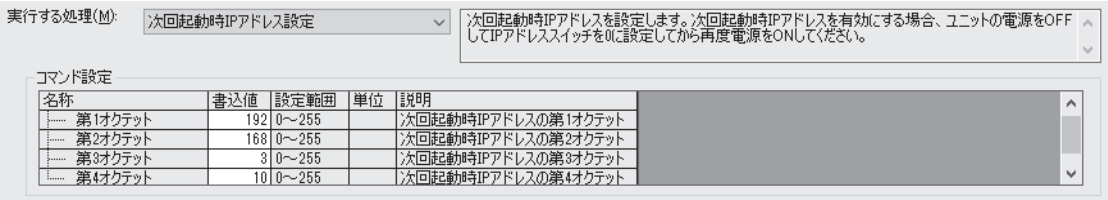
次回起動時IPアドレスを192.168.3.10とする場合の設定値

アドレス	設定値
0000H	030AH(3.10)
0001H	C0A8H(192.168)

CC-Link IE TSNでは，エンジニアリングツールの"スレーブ局のコマンド実行"からも設定できます。(☞ 107ページ スレーブ局のコマンド実行)

例

次回起動時IPアドレスを192.168.3.10とする場合の設定



Point

次回起動時IPアドレスを有効にする場合，ネットワークインタフェースユニットの電源をOFFしてIPアドレス/局番設定スイッチを0に設定してから，再度電源をONしてください。

■入力応答時間設定(0100H)

入力応答時間設定機能の設定状態を示します。(☞ 109ページ 入力応答時間設定機能)

設定値	入力応答時間設定内容
0	1ms(デフォルト)
1	0ms
2	0.2ms
3	1.5ms
4	5ms
5	10ms
6	20ms
7	70ms

設定範囲外の値が書き込まれた場合は，入力応答時間1msで動作します。

■X□ リレー ON回数(3B60H~3B61H，...，3B7EH~3B7FH)

メンテナンス情報記録機能のリレー ON回数を格納します。(☞ 104ページ メンテナンス情報記録機能)

■稼働経過時間(3B80H，3B81H)

メンテナンス情報記録機能の稼働経過時間を格納します。(☞ 104ページ メンテナンス情報記録機能)

■稼働開始年月日(3B82H~3B86H)

ネットワークインタフェースユニットが初めてネットワークに接続した時刻，または稼働開始年月日リセットを行った日時を格納します。(☞ 104ページ メンテナンス情報記録機能)

■パラメータ自動設定状態モニタ(3B90H)

パラメータ自動設定の実施状態を確認するエリアです。(☞ 137ページ スレーブ局パラメータ自動設定)

モニタ値	パラメータ自動設定実施状態
0000H	未実施
0001H	実施中
0002H	正常完了
0003H	異常完了

■最新エラー履歴ポインタ(3BA0H)

リモートバッファメモリのエラー履歴1~エラー履歴16のうち，どれが最新かを示すポインタが格納されます。ポインタは先頭アドレスからのオフセット値0~15で，デフォルトはFFFFHです。(☞ 54ページ リモートバッファメモリ一覧(パラメータエリア))

ただしCC-Link IEフィールドネットワークでは，常に最新のエラー履歴がエラー履歴1，1つ前のエラー履歴がエラー履歴2…に格納されていきます。エラー履歴がある場合，最新エラー履歴ポインタは，常に0000Hです。

■エラー履歴1~16(3BA2H~3BB2H，...，3CA1H~3CB1H)

エラー履歴1~エラー履歴16が格納されます。(☞ 93ページ エラー履歴のフォーマット)

■パラメータエリア初期化指令(4002H)

リモートバッファメモリのパラメータエリアをクリアしたいときに使用します。(☞ 106ページ パラメータエリア初期化機能)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
4002H	0固定															0: 指令なし 1: 指令あり

このエリアに1(指令あり)を設定すると，リモートバッファメモリのパラメータエリアが初期化されます。

デフォルトは0(指令なし)です。b1~b15に0以外を設定した場合，b0の値に関係なく実行されませんがエラーは発生しません。

■パラメータエリア初期化完了(4003H)

リモートバッファメモリのパラメータエリアの初期化完了状態を示します。(☞ 106ページ パラメータエリア初期化機能)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
4003H	0固定															0: 未実施 1: 完了

パラメータエリアの初期化が完了すると，b0が1(完了)となります。デフォルトは0(未実施)です。

■X□ リレー ON回数閾値設定(4100H~4101H，...，411EH~411FH)

メンテナンスアラーム機能のリレー ON回数の閾値を設定します。(☞ 105ページ メンテナンスアラーム機能)
この閾値は，リレー ON回数閾値有効/無効設定(4120H)が有効のときにカウント値と比較します。

■リレー ON回数閾値有効/無効設定(4120H)

メンテナンスアラーム機能のリレー ON回数閾値の有効/無効を設定します。(☞ 105ページ メンテナンスアラーム機能)
この設定値が有効かつリレー ON回数がX□ リレー ON回数閾値設定(4100H~4101H，...，411EH~411FH)を超えると，リレー ON回数超過検出のアラームコード(0E1□H)を出力します。

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
4120H	XF	XE	XD	XC	XB	XA	X9	X8	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0

0: リレー ON回数閾値無効
1: リレー ON回数閾値有効

■リレー ON回数リセットフラグ(4121H)

メンテナンス情報記録機能のリレー ON回数の回数をリセットします。(☞ 104ページ メンテナンス情報記録機能)
リセット完了後ONしたスイッチはネットワークインタフェースユニットがOFFします。

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
4121H	XF	XE	XD	XC	XB	XA	X9	X8	X7	X6	X5	X4	X3	X2	X1	X0

0: リレー ON回数リセット完了または未実施
1: リレー ON回数リセット要求

■稼働経過時間閾値設定(4122H，4123H)

メンテナンスアラーム機能の稼働経過時間の閾値を，時間単位で設定します。(☞ 105ページ メンテナンスアラーム機能)
この値が0のときは，稼働時間経過アラームは発生しません。

■稼働経過時間リセットフラグ(4124H)

このエリアに1を書き込むと，メンテナンス情報記録機能の稼働経過時間をリセットします。1以外の値を書き込んだ場合，リセットされません。(☞ 104ページ メンテナンス情報記録機能)
リセット完了後，本リモートバッファメモリの格納値は0になります。

■稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)

このエリアに1を書き込むと，メンテナンス情報記録機能の稼働開始年月日を現在時刻に設定します。1以外の値を書き込んだ場合，リセットされません。(☞ 104ページ メンテナンス情報記録機能)
設定完了後，本リモートバッファメモリの格納値は0になります。

FA3-TH1T16Y，FA3-TH1T16YE，FA3-TH1M16Y，FA3-TH1M16YE

リモートバッファメモリ一覧(パラメータエリア)

R: 読出し可，W: 書込み可

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
局単位パラメータデータ	0000H	0	次回起動時IPアドレス設定(第3，第4オクテット)	☞ 55ページ 次回起動時IPアドレス設定(0000H，0001H)	03FAH (3.250)	R/W
	0001H	1	次回起動時IPアドレス設定(第1，第2オクテット)		C0A8H (192.168)	
	0002H~00FFH	2~255	使用禁止		—	—
ユニット単位パラメータデータ	0100H	256	使用禁止		—	—
	0101H	257	☞ 59ページ 出力HOLD/CLEAR設定(0101H)		0000H	R/W
	0102H~01FFH	258~511	使用禁止		—	—
—	0200H~02FFH	512~767	使用禁止		—	—

リモートバッファメモリ一覧(モニタエリア，制御エリア)

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
ユニット単位モニタデータ	0300H~3B5FH	768~15199	使用禁止		—	—
	3B60H，3B61H	15200，15201	Y0 リレー ON回数	☞ 59ページ Y□ リレー ON回数(3B60H~3B61H，...，3B7EH~3B7FH)	00000000H	R
	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮
	3B7EH，3B7FH	15230，15231	YF リレー ON回数		00000000H	R
	3B80H，3B81H	15232，15233	☞ 56ページ 稼働経過時間(3B80H，3B81H)		00000000H	R
	3B82H~3B86H	15234~15238	☞ 56ページ 稼働開始年月日(3B82H~3B86H)		0	R
	3B87H~3B8FH	15239~15247	使用禁止		—	—
	3B90H	15248	☞ 56ページ パラメータ自動設定状態モニタ(3B90H)		0000H	R
	3B91H~3B9FH	15249~15263	使用禁止		—	—
	3BA0H	15264	☞ 56ページ 最新エラー履歴ポインタ(3BA0H)		FFFFH	R
	3BA1H	15265	使用禁止		—	—
	3BA2H~3BB2H	15266~15282	エラー履歴1(最新エラー履歴ポインタが0のとき最新)*1	☞ 56ページ エラー履歴1~16(3BA2H~3BB2H，...，3CA1H~3CB1H)	0000H	R
	3BB3H~3BC3H	15283~15299	エラー履歴2(最新エラー履歴ポインタが1のとき最新)*1		0000H	R
	3BC4H~3BD4H	15300~15316	エラー履歴3(最新エラー履歴ポインタが2のとき最新)*1		0000H	R
	3BD5H~3BE5H	15317~15333	エラー履歴4(最新エラー履歴ポインタが3のとき最新)*1		0000H	R
	3BE6H~3BF6H	15334~15350	エラー履歴5(最新エラー履歴ポインタが4のとき最新)*1		0000H	R
	3BF7H~3C07H	15351~15367	エラー履歴6(最新エラー履歴ポインタが5のとき最新)*1		0000H	R
	3C08H~3C18H	15368~15384	エラー履歴7(最新エラー履歴ポインタが6のとき最新)*1		0000H	R
	3C19H~3C29H	15385~15401	エラー履歴8(最新エラー履歴ポインタが7のとき最新)*1		0000H	R
	3C2AH~3C3AH	15402~15418	エラー履歴9(最新エラー履歴ポインタが8のとき最新)*1		0000H	R
	3C3BH~3C4BH	15419~15435	エラー履歴10(最新エラー履歴ポインタが9のとき最新)*1		0000H	R
	3C4CH~3C5CH	15436~15452	エラー履歴11(最新エラー履歴ポインタが10のとき最新)*1		0000H	R
	3C5DH~3C6DH	15453~15469	エラー履歴12(最新エラー履歴ポインタが11のとき最新)*1		0000H	R
	3C6EH~3C7EH	15470~15486	エラー履歴13(最新エラー履歴ポインタが12のとき最新)*1		0000H	R
	3C7FH~3C8FH	15487~15503	エラー履歴14(最新エラー履歴ポインタが13のとき最新)*1		0000H	R
	3C90H~3CA0H	15504~15520	エラー履歴15(最新エラー履歴ポインタが14のとき最新)*1		0000H	R
	3CA1H~3CB1H	15521~15537	エラー履歴16(最新エラー履歴ポインタが15のとき最新)*1		0000H	R
	3CB2H~3FFFH	15538~16383	使用禁止		—	—
局単位制御データ	4000H，4001H	16384，16385	使用禁止		—	—
	4002H	16386	☞ 56ページ パラメータエリア初期化指令(4002H)		0	R/W
	4003H	16387	☞ 57ページ パラメータエリア初期化完了(4003H)		0	R
	4004H~40FFH	16388~16639	使用禁止		—	—

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
ユニット単位制御データ	4100H，4101H	16640，16641	Y0 リレー ON回数閾値設定	☞ 59ページ Y□ リレー ON回数閾値設定(4100H~4101H，...，411EH~411FH)	00000000H	R/W
	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮
	411EH，411FH	16670，16671	YF リレー ON回数閾値設定		00000000H	R/W
	4120H	16672	☞ 57ページ リレー ON回数閾値有効/無効設定(4120H)		0000H	R/W
	4121H	16673	☞ 57ページ リレー ON回数リセットフラグ(4121H)		0000H	R/W
	4122H，4123H	16674，16675	☞ 57ページ 稼働経過時間閾値設定(4122H，4123H)		00000000H	R/W
	4124H	16676	☞ 57ページ 稼働経過時間リセットフラグ(4124H)		0000H	R/W
	4125H	16677	☞ 57ページ 稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)		0000H	R/W
	4126H~4FFFH	16678~20479	使用禁止		—	—

*1　CC-Link IEフィールドネットワークでは常にエラー履歴1が最新です。(☞ 56ページ 最新エラー履歴ポインタ(3BA0H))

制約事項

R/Wの欄がRのみになっている項目には書込みしないでください。書き込んだ場合は動作を保証できません。

リモートバッファメモリ詳細

■出力HOLD/CLEAR設定(0101H)

ネットワークインタフェースユニットがデータリンクから解列したとき，またはCPUユニットの動作状態がSTOP時，RESET時，エラー停止時に，直前まで出力されていた値を保持(HOLD)するか，クリア(CLEAR)するかを設定します。(☞ 110ページ 出力HOLD/CLEAR設定機能)

0: CLEAR(デフォルト)

1: HOLD

上記以外(不正な値)を設定した場合，出力値は保持(HOLD)します。

■Y□ リレー ON回数(3B60H~3B61H，...，3B7EH~3B7FH)

メンテナンス情報記録機能のリレー ON回数を格納します。(☞ 104ページ メンテナンス情報記録機能)

■Y□ リレー ON回数閾値設定(4100H~4101H，...，411EH~411FH)

メンテナンスアラーム機能のリレー ON回数の閾値を設定します。(☞ 105ページ メンテナンスアラーム機能)

この閾値は，リレー ON回数閾値有効/無効設定(4120H)が有効のときにカウント値と比較します。

リモートバッファメモリ一覧(パラメータエリア)

R: 読出し可，W: 書込み可

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
局単位パラメータデータ	0000H	0	次回起動時IPアドレス設定(第3，第4オクテット)	☞ 55ページ 次回起動時IPアドレス設定(0000H，0001H)	03FAH (3.250)	R/W
	0001H	1	次回起動時IPアドレス設定(第1，第2オクテット)		C0A8H (192.168)	
	0002H~00FFH	2~255	使用禁止		—	—
ユニット単位パラメータデータ	0100H，0101H	256，257	使用禁止		—	—
	0102H	258	☞ 64ページ CH□ A/D変換許可/禁止設定(0102H)		0000H	R/W
	0103H，0104H	259，260	使用禁止		—	—
	0105H	261	平均処理指定(CH1~CH4)	☞ 64ページ CH□ 平均処理指定(0105H，0106H)	0000H	R/W
	0106H	262	平均処理指定(CH5~CH8)		0000H	R/W
	0107H	263	CH1 平均時間/平均回数/移動平均設定	☞ 64ページ CH□ 平均時間/平均回数/移動平均設定(0107H~010EH)	0	R/W
	0108H	264	CH2 平均時間/平均回数/移動平均設定		0	R/W
	0109H	265	CH3 平均時間/平均回数/移動平均設定		0	R/W
	010AH	266	CH4 平均時間/平均回数/移動平均設定		0	R/W
	010BH	267	CH5 平均時間/平均回数/移動平均設定		0	R/W
	010CH	268	CH6 平均時間/平均回数/移動平均設定		0	R/W
	010DH	269	CH7 平均時間/平均回数/移動平均設定		0	R/W
	010EH	270	CH8 平均時間/平均回数/移動平均設定		0	R/W
	010FH	271	入力信号異常検出設定(CH1~CH4)	☞ 64ページ 入力信号異常検出設定(010FH，0110H)	0000H	R/W
	0110H	272	入力信号異常検出設定(CH5~CH8)		0000H	R/W
	0111H	273	☞ 65ページ 警報出力設定(0111H)		00FFH	R/W
	0112H	274	CH1 プロセスアラーム下下限値	☞ 65ページ CH□ プロセスアラーム上限値/下限値(0112H~0131H)	0	R/W
	0113H	275	CH1 プロセスアラーム下上限値		0	R/W
	0114H	276	CH1 プロセスアラーム上下限値		0	R/W
	0115H	277	CH1 プロセスアラーム上上限値		0	R/W
	0116H	278	CH2 プロセスアラーム下下限値		0	R/W
	0117H	279	CH2 プロセスアラーム下上限値		0	R/W
	0118H	280	CH2 プロセスアラーム上下限値		0	R/W
	0119H	281	CH2 プロセスアラーム上上限値		0	R/W
	011AH	282	CH3 プロセスアラーム下下限値		0	R/W
	011BH	283	CH3 プロセスアラーム下上限値		0	R/W
	011CH	284	CH3 プロセスアラーム上下限値		0	R/W
	011DH	285	CH3 プロセスアラーム上上限値		0	R/W
	011EH	286	CH4 プロセスアラーム下下限値		0	R/W
	011FH	287	CH4 プロセスアラーム下上限値		0	R/W
	0120H	288	CH4 プロセスアラーム上下限値		0	R/W
	0121H	289	CH4 プロセスアラーム上上限値		0	R/W
	0122H	290	CH5 プロセスアラーム下下限値		0	R/W
	0123H	291	CH5 プロセスアラーム下上限値		0	R/W
	0124H	292	CH5 プロセスアラーム上下限値		0	R/W
	0125H	293	CH5 プロセスアラーム上上限値		0	R/W
	0126H	294	CH6 プロセスアラーム下下限値		0	R/W
	0127H	295	CH6 プロセスアラーム下上限値		0	R/W
	0128H	296	CH6 プロセスアラーム上下限値		0	R/W
	0129H	297	CH6 プロセスアラーム上上限値		0	R/W

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
ユニット単位パラメータデータ	012AH	298	CH7 プロセスアラーム下下限値	☞ 65ページ CH□ プロセスアラーム上限値/下限値 (0112H~0131H)	0	R/W
	012BH	299	CH7 プロセスアラーム下上限値		0	R/W
	012CH	300	CH7 プロセスアラーム上下限値		0	R/W
	012DH	301	CH7 プロセスアラーム上上限値		0	R/W
	012EH	302	CH8 プロセスアラーム下下限値		0	R/W
	012FH	303	CH8 プロセスアラーム下上限値		0	R/W
	0130H	304	CH8 プロセスアラーム上下限値		0	R/W
	0131H	305	CH8 プロセスアラーム上上限値		0	R/W
	0132H	306	☞ 65ページ デジタルクリップ有効/無効設定(0132H)		0000H	R/W
	0133H	307	☞ 65ページ スケーリング有効/無効設定(0133H)		00FFH	R/W
	0134H	308	CH1 スケーリング下限値	☞ 66ページ CH□ スケーリング上限値/下限値 (0134H~0143H)	0	R/W
	0135H	309	CH1 スケーリング上限値		0	R/W
	0136H	310	CH2 スケーリング下限値		0	R/W
	0137H	311	CH2 スケーリング上限値		0	R/W
	0138H	312	CH3 スケーリング下限値		0	R/W
	0139H	313	CH3 スケーリング上限値		0	R/W
	013AH	314	CH4 スケーリング下限値		0	R/W
	013BH	315	CH4 スケーリング上限値		0	R/W
	013CH	316	CH5 スケーリング下限値		0	R/W
	013DH	317	CH5 スケーリング上限値		0	R/W
	013EH	318	CH6 スケーリング下限値		0	R/W
	013FH	319	CH6 スケーリング上限値		0	R/W
	0140H	320	CH7 スケーリング下限値		0	R/W
	0141H	321	CH7 スケーリング上限値		0	R/W
	0142H	322	CH8 スケーリング下限値		0	R/W
	0143H	323	CH8 スケーリング上限値		0	R/W
	0144H~04FFH	324~1279	使用禁止		—	—
—	0500H~05FFH	1280~1535	使用禁止		—	—

Point

FA3-ATのパラメータは，リモートバッファメモリに書き込んだだけでは有効になりません。有効にするためには，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)のOFF→ON→OFFが必要です。
また，リモートバッファメモリの内容は，不揮発性メモリに自動保存される項目と，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFしたタイミングで不揮発性メモリに保存される項目があります。(☞ 53ページ 不揮発性メモリへの保存)

リモートバッファメモリ一覧(モニタエリア，制御エリア)

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
ユニット単位モニタデータ	0600H	1536	CH1 最大値	☞ 66ページ CH□ 最大値・最小値 (0600H~060FH)	0	R
	0601H	1537	CH1 最小値		0	R
	0602H	1538	CH2 最大値		0	R
	0603H	1539	CH2 最小値		0	R
	0604H	1540	CH3 最大値		0	R
	0605H	1541	CH3 最小値		0	R
	0606H	1542	CH4 最大値		0	R
	0607H	1543	CH4 最小値		0	R
	0608H	1544	CH5 最大値		0	R
	0609H	1545	CH5 最小値		0	R
	060AH	1546	CH6 最大値		0	R
	060BH	1547	CH6 最小値		0	R
	060CH	1548	CH7 最大値		0	R
	060DH	1549	CH7 最小値		0	R
	060EH	1550	CH8 最大値		0	R
	060FH	1551	CH8 最小値		0	R
	0600H	1536	CH1 最大値		0	R
	0601H	1537	CH1 最小値		0	R
	0602H	1538	CH2 最大値		0	R
	0603H	1539	CH2 最小値		0	R
	0604H	1540	CH3 最大値		0	R
	0605H	1541	CH3 最小値		0	R
	0606H	1542	CH4 最大値		0	R
	0607H	1543	CH4 最小値		0	R
	0608H	1544	CH5 最大値		0	R
	0609H	1545	CH5 最小値		0	R
	060AH	1546	CH6 最大値		0	R
	060BH	1547	CH6 最小値		0	R
	060CH	1548	CH7 最大値		0	R
	060DH	1549	CH7 最小値		0	R
	060EH	1550	CH8 最大値		0	R
	060FH	1551	CH8 最小値		0	R
	0610H~3B7FH	1552~15231	使用禁止		—	—
	3B80H，3B81H	15232，15233	☞ 56ページ 稼働経過時間(3B80H，3B81H)		00000000H	R
	3B82H~3B86H	15234~15238	☞ 56ページ 稼働開始年月日(3B82H~3B86H)		0	R
	3B87H~3B8FH	15239~15247	使用禁止		—	—
	3B90H	15248	☞ 56ページ パラメータ自動設定状態モニタ(3B90H)		0000H	R
	3B91H~3B9FH	15249~15263	使用禁止		—	—

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
ユニット単位モニタデータ	3BA0H	15264	☞ 56ページ 最新エラー履歴ポインタ(3BA0H)		FFFFH	R
	3BA1H	15265	使用禁止		—	—
	3BA2H~3BB2H	15266~15282	エラー履歴1(最新エラー履歴ポインタが0のとき最新)*1	☞ 56ページ エラー履歴1~16(3BA2H~3BB2H，…，3CA1H~3CB1H)	0000H	R
	3BB3H~3BC3H	15283~15299	エラー履歴2(最新エラー履歴ポインタが1のとき最新)*1		0000H	R
	3BC4H~3BD4H	15300~15316	エラー履歴3(最新エラー履歴ポインタが2のとき最新)*1		0000H	R
	3BD5H~3BE5H	15317~15333	エラー履歴4(最新エラー履歴ポインタが3のとき最新)*1		0000H	R
	3BE6H~3BF6H	15334~15350	エラー履歴5(最新エラー履歴ポインタが4のとき最新)*1		0000H	R
	3BF7H~3C07H	15351~15367	エラー履歴6(最新エラー履歴ポインタが5のとき最新)*1		0000H	R
	3C08H~3C18H	15368~15384	エラー履歴7(最新エラー履歴ポインタが6のとき最新)*1		0000H	R
	3C19H~3C29H	15385~15401	エラー履歴8(最新エラー履歴ポインタが7のとき最新)*1		0000H	R
	3C2AH~3C3AH	15402~15418	エラー履歴9(最新エラー履歴ポインタが8のとき最新)*1		0000H	R
	3C3BH~3C4BH	15419~15435	エラー履歴10(最新エラー履歴ポインタが9のとき最新)*1		0000H	R
	3C4CH~3C5CH	15436~15452	エラー履歴11(最新エラー履歴ポインタが10のとき最新)*1		0000H	R
	3C5DH~3C6DH	15453~15469	エラー履歴12(最新エラー履歴ポインタが11のとき最新)*1		0000H	R
	3C6EH~3C7EH	15470~15486	エラー履歴13(最新エラー履歴ポインタが12のとき最新)*1		0000H	R
	3C7FH~3C8FH	15487~15503	エラー履歴14(最新エラー履歴ポインタが13のとき最新)*1		0000H	R
	3C90H~3CA0H	15504~15520	エラー履歴15(最新エラー履歴ポインタが14のとき最新)*1		0000H	R
	3CA1H~3CB1H	15521~15537	エラー履歴16(最新エラー履歴ポインタが15のとき最新)*1		0000H	R
	3CB2H~3CFFH	15538~15615	使用禁止		—	—
—	3D00H~3FFFH	15616~16383	使用禁止		—	—
局単位制御データ	4000H，4001H	16384，16385	使用禁止		—	—
	4002H	16386	☞ 56ページ パラメータエリア初期化指令(4002H)		0	R/W
	4003H	16387	☞ 57ページ パラメータエリア初期化完了(4003H)		0	R
	4004H~40FFH	16388~16639	使用禁止		—	—
ユニット単位制御データ	4100H	16640	CH1 ロギングデータ設定	☞ 66ページ CH□ ロギングデータ設定(4100H~4107H)	0000H	R/W
	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮
	4107H	16647	CH8 ロギングデータ設定		0000H	R/W
	4108H	16648	CH1 ロギング周期設定	☞ 66ページ CH□ ロギング周期設定(4108H~410FH)	0001H	R/W
	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮
	410FH	16655	CH8 ロギング周期設定		0001H	R/W
	4110H	16656	CH1 ロギング周期単位設定	☞ 66ページ CH□ ロギング周期単位設定(4110H~4117H)	0000H	R/W
	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮
	4117H	16663	CH8 ロギング周期単位設定		0000H	R/W
	4118H~4121H	16664~16673	使用禁止		—	—
	4122H，4123H	16674，16675	☞ 57ページ 稼働経過時間閾値設定(4122H，4123H)		00000000H	R/W
	4124H	16676	☞ 57ページ 稼働経過時間リセットフラグ(4124H)		0000H	R/W
	4125H	16677	☞ 57ページ 稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)		0000H	R/W
	4126H~4FFFH	16678~20479	使用禁止		—	—

*1　CC-Link IEフィールドネットワークでは常にエラー履歴1が最新です。(☞ 56ページ 最新エラー履歴ポインタ(3BA0H))

制約事項

R/Wの欄がRのみになっている項目には書込みしないでください。書き込んだ場合は動作を保証できません。

リモートバッファメモリ詳細

■CH□ A/D変換許可/禁止設定(0102H)

チャンネルごとに，A/D変換を許可するか，禁止するかの設定をします。

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0102H	0固定								CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 許可(デフォルト)
1: 禁止
b8~b15に0以外を設定した場合でも，b0~b7の設定は有効となり，エラーは発生しません。

■CH□ 平均処理指定(0105H，0106H)

サンプリング処理または平均処理の選択をチャンネルごとに設定します。(☞ 115ページ 平均処理)
平均処理を設定する場合，時間平均，回数平均，移動平均を選択します。

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0105H	CH4				CH3				CH2				CH1			
0106H	CH8				CH7				CH6				CH5			

設定値	処理方法
0H	サンプリング処理(デフォルト)
1H	時間平均
2H	回数平均
3H	移動平均

設定範囲外の値が書き込まれたチャンネルは，サンプリング処理で動作します。

■CH□ 平均時間/平均回数/移動平均設定(0107H~010EH)

CH□ 平均処理指定(0105H，0106H)で設定したチャンネルごとに平均時間，平均回数，移動平均回数を設定します。
(☞ 115ページ 平均処理)

処理方法	設定範囲
時間平均	2~10000ms
回数平均	4~65000回
移動平均	2~128回

デフォルトは，0が設定されています。
設定範囲外の値を設定したチャンネルには，エラーが発生します。その場合，最新エラーコード(RWr0)にエラーコード(320□H，321□H，または322□H)が格納され，エラー状態フラグ(RXA)がONされ，エラー前の設定で動作します。

Point

- 平均処理指定でサンプリング処理に指定したチャンネルに対して，設定値を設定した場合，設定値は無視されます。
- 平均処理指定で1H(時間平均)に指定されたチャンネルに対して，処理回数が2未満となる場合はサンプリング処理と同様になります。

■入力信号異常検出設定(010FH，0110H)

チャンネルごとに，入力信号異常検出の有効/無効を設定します。(☞ 117ページ 入力信号異常検出機能)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
010FH	CH4				CH3				CH2				CH1			
0110H	CH8				CH7				CH6				CH5			

設定値	入力信号異常検出方法
0H	無効(デフォルト)
4H	入力信号異常検出

4H以外は無効として処理されます。

■警報出力設定(0111H)

チャンネルごとに，プロセスアラームの警報出力を許可するか，禁止するかを設定します。(☞ 119ページ 警報出力機能(プロセスアラーム))

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0111H	0固定								CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 許可
1: 禁止(デフォルト)
b8~b15に0以外を設定した場合でも，b0~b7の設定は有効となり，エラーは発生しません。

■CH□ プロセスアラーム上限値/下限値(0112H~0131H)

チャンネルごとに，デジタル演算値の警報出力範囲を設定します。
デジタル演算値が本リモートバッファメモリで設定した警報出力範囲に入ると，警報が出力されます。(☞ 119ページ 警報出力機能(プロセスアラーム))

CH□ プロセスアラーム上限値/下限値(0112H~0131H)	設定範囲
プロセスアラーム下下限値	-32768~32767(デフォルト0)
プロセスアラーム下上限値	
プロセスアラーム上下限値	
プロセスアラーム上上限値	

設定範囲外の値または下下限値≤下上限値≤上下限値≤上上限値を満たさない値を設定したチャンネルには，エラーが発生します。その場合，最新エラーコード(RWr0)にエラーコード(330□H，331□H，または332□H)が格納され，エラー状態フラグ(RXA)がONされ，エラー前の設定で動作します。

Point

- デフォルトは0が設定されています。設定値を変更してから，設定内容を有効にしてください。
- スケーリング有効/無効設定を有効にした場合，必ずスケール換算を考慮した値に設定してください。

■デジタルクリップ有効/無効設定(0132H)

チャンネルごとに，デジタルクリップを有効にするか無効にするかを設定します。(☞ 121ページ デジタルクリップ機能)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0132H	0固定								CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 無効(デフォルト)
1: 有効
b8~b15に0以外を設定した場合でも，b0~b7の設定は有効となり，エラーは発生しません。

■スケーリング有効/無効設定(0133H)

チャンネルごとに，スケーリングを有効にするか無効にするかを設定します。(☞ 122ページ スケーリング機能)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0133H	0固定								CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 有効
1: 無効(デフォルト)
b8~b15に0以外を設定した場合でも，b0~b7の設定は有効となり，エラーは発生しません。

■CH□ スケーリング上限値/下限値(0134H~0143H)

チャンネルごとに，スケール換算する範囲を設定します。(☞ 122ページ スケーリング機能)

CH□ スケーリング上限値/下限値(0134H~0143H)	設定範囲
スケーリング下限値	-32000~32000(デフォルト0)
スケーリング上限値	

設定範囲外の値または上限値>下限値を満たさない値を設定したチャンネルには，エラーが発生します。その場合，最新エラーコード(RWr0)にエラーコード(350□Hまたは351□H)が格納され，エラー状態フラグ(RXA)がONされ，エラー前の設定で動作します。

Point

- デフォルトは0が設定されています。設定値を変更してから，設定内容を有効にしてください。
- スケーリング有効/無効設定(0133H)が無効に設定されている場合，本リモートバッファメモリの設定は無視されます。

■CH□ 最大値・最小値(0600H~060FH)

チャンネルごとに，変換したデジタル演算値の最大値と最小値を16ビット符号付きバイナリで格納します。(☞ 127ページ 最大値・最小値ホールド機能)

最大値・最小値は変換周期ごとに更新されます。

イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFして設定が変更された場合は0でクリアされ，最大値・最小値リセット要求(RY1D)をOFF→ON→OFFした場合，現在値でクリアされます。

■CH□ ロギングデータ設定(4100H~4107H)

チャンネルごとに下記どちらのデータを収集するかを設定します。(☞ 101ページ ロギング機能(FA3-AT))

- 0: デジタル出力値
- 1: スケーリング値(デジタル演算値)

上記以外(不正な値)を設定した場合，デジタル出力値を収集します。

■CH□ ロギング周期設定(4108H~410FH)

チャンネルごとにロギング周期を設定します。(☞ 102ページ ロギング周期)

■CH□ ロギング周期単位設定(4110H~4117H)

チャンネルごとにロギング周期単位を設定します。(☞ 102ページ ロギング周期)

FA3-AT1T8Y，FA3-AT1M8Y

リモートバッファメモリ一覧(パラメータエリア)

R: 読出し可，W: 書込み可

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
局単位パラメータデータ	0000H	0	次回起動時IPアドレス設定(第3，第4オクテット)	☞ 55ページ 次回起動時IPアドレス設定(0000H，0001H)	03FAH (3.250)	R/W
	0001H	1	次回起動時IPアドレス設定(第1，第2オクテット)		C0A8H (192.168)	
	0002H~00FFH	2~255	使用禁止		—	—
ユニット単位パラメータデータ	0100H，0101H	256，257	使用禁止		—	—
	0102H	258	☞ 69ページ CH□ D/A変換許可/禁止設定(0102H)		00FFH	R/W
	0103H，0104H	259，260	使用禁止		—	—
	0105H	261	アナログ出力HOLD/CLEAR設定(CH1~CH4)	☞ 69ページ アナログ出力HOLD/CLEAR設定(0105H，0106H)	0000H	R/W
	0106H	262	アナログ出力HOLD/CLEAR設定(CH5~CH8)		0000H	R/W
	0107H	263	☞ 69ページ 警報出力設定(0107H)		00FFH	R/W
	0108H	264	CH1 警報出力上限値	☞ 69ページ CH□ 警報出力上限値/下限値 (0108H~0117H)	0	R/W
	0109H	265	CH1 警報出力下限値		0	R/W
	010AH	266	CH2 警報出力上限値		0	R/W
	010BH	267	CH2 警報出力下限値		0	R/W
	010CH	268	CH3 警報出力上限値		0	R/W
	010DH	269	CH3 警報出力下限値		0	R/W
	010EH	270	CH4 警報出力上限値		0	R/W
	010FH	271	CH4 警報出力下限値		0	R/W
	0110H	272	CH5 警報出力上限値		0	R/W
	0111H	273	CH5 警報出力下限値		0	R/W
	0112H	274	CH6 警報出力上限値		0	R/W
	0113H	275	CH6 警報出力下限値		0	R/W
	0114H	276	CH7 警報出力上限値		0	R/W
	0115H	277	CH7 警報出力下限値		0	R/W
	0116H	278	CH8 警報出力上限値		0	R/W
	0117H	279	CH8 警報出力下限値		0	R/W
	0118H	280	☞ 70ページ スケーリング有効/無効設定(0118H)		00FFH	R/W
	0119H	281	CH1 スケーリング下限値	☞ 70ページ CH□ スケーリング上限値/下限値 (0119H~0128H)	0	R/W
	011AH	282	CH1 スケーリング上限値		0	R/W
	011BH	283	CH2 スケーリング下限値		0	R/W
	011CH	284	CH2 スケーリング上限値		0	R/W
	011DH	285	CH3 スケーリング下限値		0	R/W
	011EH	286	CH3 スケーリング上限値		0	R/W
	011FH	287	CH4 スケーリング下限値		0	R/W
	0120H	288	CH4 スケーリング上限値		0	R/W
	0121H	289	CH5 スケーリング下限値		0	R/W
	0122H	290	CH5 スケーリング上限値		0	R/W
	0123H	291	CH6 スケーリング下限値		0	R/W
	0124H	292	CH6 スケーリング上限値		0	R/W
	0125H	293	CH7 スケーリング下限値		0	R/W
	0126H	294	CH7 スケーリング上限値		0	R/W
	0127H	295	CH8 スケーリング下限値		0	R/W
	0128H	296	CH8 スケーリング上限値		0	R/W
	0129H~04FFH	297~1279	使用禁止		—	—

種別	アドレス		名称/参照先	デフォルト	R/W
	16進	10進			
—	0500H~05FFH	1280~1535	使用禁止	—	—

Point

FA3-ATのパラメータは，リモートバッファメモリに書き込んだだけでは有効になりません。有効にするためには，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)のOFF→ON→OFFが必要です。
また，リモートバッファメモリの内容は，不揮発性メモリに自動保存される項目と，イニシャルデータ設定要求フラグ(RY9)をOFF→ON→OFFしたタイミングで不揮発性メモリに保存される項目があります。(☞ 53ページ 不揮発性メモリへの保存)

リモートバッファメモリ一覧(モニタエリア，制御エリア)

種別	アドレス		名称/参照先		デフォルト	R/W
	16進	10進				
ユニット単位モニタデータ	0600H~3B7FH	1536~15231	使用禁止		—	—
	3B80H，3B81H	15232，15233	☞ 56ページ 稼働経過時間(3B80H，3B81H)		00000000H	R
	3B82H~3B86H	15234~15238	☞ 56ページ 稼働開始年月日(3B82H~3B86H)		0	R
	3B87H~3B8FH	15239~15247	使用禁止		—	—
	3B90H	15248	☞ 56ページ パラメータ自動設定状態モニタ(3B90H)		0000H	R
	3B91H~3B9FH	15249~15263	使用禁止		—	—
	3BA0H	15264	☞ 56ページ 最新エラー履歴ポインタ(3BA0H)		FFFFH	R
	3BA1H	15265	使用禁止		—	—
	3BA2H~3BB2H	15266~15282	エラー履歴1(最新エラー履歴ポインタが0のとき最新)*1	☞ 56ページ エラー履歴1~16(3BA2H~3BB2H，…，3CA1H~3CB1H)	0000H	R
	3BB3H~3BC3H	15283~15299	エラー履歴2(最新エラー履歴ポインタが1のとき最新)*1		0000H	R
	3BC4H~3BD4H	15300~15316	エラー履歴3(最新エラー履歴ポインタが2のとき最新)*1		0000H	R
	3BD5H~3BE5H	15317~15333	エラー履歴4(最新エラー履歴ポインタが3のとき最新)*1		0000H	R
	3BE6H~3BF6H	15334~15350	エラー履歴5(最新エラー履歴ポインタが4のとき最新)*1		0000H	R
	3BF7H~3C07H	15351~15367	エラー履歴6(最新エラー履歴ポインタが5のとき最新)*1		0000H	R
	3C08H~3C18H	15368~15384	エラー履歴7(最新エラー履歴ポインタが6のとき最新)*1		0000H	R
	3C19H~3C29H	15385~15401	エラー履歴8(最新エラー履歴ポインタが7のとき最新)*1		0000H	R
	3C2AH~3C3AH	15402~15418	エラー履歴9(最新エラー履歴ポインタが8のとき最新)*1		0000H	R
	3C3BH~3C4BH	15419~15435	エラー履歴10(最新エラー履歴ポインタが9のとき最新)*1		0000H	R
	3C4CH~3C5CH	15436~15452	エラー履歴11(最新エラー履歴ポインタが10のとき最新)*1		0000H	R
	3C5DH~3C6DH	15453~15469	エラー履歴12(最新エラー履歴ポインタが11のとき最新)*1		0000H	R
	3C6EH~3C7EH	15470~15486	エラー履歴13(最新エラー履歴ポインタが12のとき最新)*1		0000H	R
	3C7FH~3C8FH	15487~15503	エラー履歴14(最新エラー履歴ポインタが13のとき最新)*1		0000H	R
	3C90H~3CA0H	15504~15520	エラー履歴15(最新エラー履歴ポインタが14のとき最新)*1		0000H	R
	3CA1H~3CB1H	15521~15537	エラー履歴16(最新エラー履歴ポインタが15のとき最新)*1		0000H	R
	3CB2H~3CFFH	15538~15615	使用禁止		—	—
—	3D00H~3FFFH	15616~16383	使用禁止		—	—
局単位制御データ	4000H，4001H	16384，16385	使用禁止		—	—
	4002H	16386	☞ 56ページ パラメータエリア初期化指令(4002H)		0	R/W
	4003H	16387	☞ 57ページ パラメータエリア初期化完了(4003H)		0	R
	4004H~40FFH	16388~16639	使用禁止		—	—
ユニット単位制御データ	4100H	16640	CH1 ロギングデータ設定	☞ 70ページ CH□ ロギングデータ設定(4100H~4107H)	0000H	R/W
	⋮	⋮	⋮		⋮	⋮
	4107H	16647	CH8 ロギングデータ設定		0000H	R/W
	4108H~4117H	16648~16663	使用禁止		—	—
	4118H~4121H	16664~16673	使用禁止		—	—
	4122H，4123H	16674，16675	☞ 57ページ 稼働経過時間閾値設定(4122H，4123H)		00000000H	R/W
	4124H	16676	☞ 57ページ 稼働経過時間リセットフラグ(4124H)		0000H	R/W
	4125H	16677	☞ 57ページ 稼働開始年月日リセットフラグ(4125H)		0000H	R/W
	4126H~4FFFH	16678~20479	使用禁止		—	—

*1　CC-Link IEフィールドネットワークでは常にエラー履歴1が最新です。(☞ 56ページ 最新エラー履歴ポインタ(3BA0H))

制約事項

R/Wの欄がRのみになっている項目には書込みしないでください。書き込んだ場合は動作を保証できません。

リモートバッファメモリ詳細

■CH□ D/A変換許可/禁止設定(0102H)

チャンネルごとに，D/A変換を許可するか，禁止するかの設定をします。

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0102H	0固定								CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 許可

1: 禁止(デフォルト)

b8~b15に0以外を設定した場合でも，b0~b7の設定は有効となり，エラーは発生しません。

■アナログ出力HOLD/CLEAR設定(0105H，0106H)

ネットワークインタフェースユニットがデータリンクから解列したとき，またはCPUユニットの動作状態がSTOP時，RESET時，エラー停止時に，直前のアナログ出力値を保持(HOLD)するか，クリア(CLEAR)するかを設定します。(☞ 130ページ アナログ出力HOLD/CLEAR設定機能)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0105H	CH4				CH3				CH2				CH1			
0116H	CH8				CH7				CH6				CH5			

0: CLEAR(デフォルト)

1: HOLD

上記以外(不正な値)を設定した場合，出力値は保持(HOLD)します。

■警報出力設定(0107H)

チャンネルごとに，警報出力を許可するか，禁止するかを設定します。(☞ 131ページ 警報出力機能)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0107H	0固定								CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 許可

1: 禁止(デフォルト)

b8~b15に0以外を設定した場合でも，b0~b7の設定は有効となり，エラーは発生しません。

■CH□ 警報出力上限値/下限値(0108H~0117H)

チャンネルごとに，デジタル値の警報出力範囲を設定します。(☞ 131ページ 警報出力機能)

デジタル値が本リモートバッファメモリで設定した警報出力範囲に入ると，警報が出力されます。

CH□ 警報出力上限値/下限値設定(0108H~0117H)	設定範囲
警報出力上限値	-32768~32767(デフォルト0)
警報出力下限値	

設定範囲外の値または上限値>下限値を満たさない値を設定したチャンネルには，エラーが発生します。その場合，最新エラーコード(RWr0)にエラーコード(330□H)が格納され，エラー状態フラグ(RXA)がONされ，エラー前の設定で動作します。

Point

- スケーリング有効/無効設定が有効に設定されている場合，スケーリング範囲を考慮した値に設定してください。
- 警報出力設定(0107H)に禁止が設定されている場合，禁止に設定されているチャンネルの警報出力上限値と警報出力下限値の設定は無視されます。

■スケーリング有効/無効設定(0118H)

チャンネルごとに，スケーリングを有効にするか，無効にするかを設定します。(☞ 133ページ スケーリング機能)

アドレス	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
0118H	0固定								CH8	CH7	CH6	CH5	CH4	CH3	CH2	CH1

0: 有効

1: 無効(デフォルト)

b8~b15に0以外を設定した場合でも，b0~b7の設定は有効となり，エラーは発生しません。

■CH□ スケーリング上限値/下限値(0119H~0128H)

スケーリング機能使用時に，デジタル値の入力範囲を設定します。(☞ 133ページ スケーリング機能)

上限値>下限値となるように設定してください。

CH□ スケーリング上限値/下限値(0119H~0128H)	設定範囲
スケーリング下限値	-32000~32000(デフォルト0)
スケーリング上限値	

上限値≤下限値に設定した場合，または範囲外の値を設定した場合，最新エラーコード(RWr0)にエラーコード(350□Hまたは351□H)が格納されます。

Point

スケーリング有効/無効設定(0118H)に無効が設定されている場合，無効に設定されているチャンネルのスケーリング上限値とスケーリング下限値の設定は無視されます。

■CH□ ロギングデータ設定(4100H~4107H)

チャンネルごとに下記どちらのデータを収集するかを設定します。(☞ 101ページ ロギング機能(FA3-AT))

- 0: デジタル入力値
- 1: スケーリング値(デジタル演算値)

上記以外(不正な値)を設定した場合，デジタル入力値を収集します。

3.7 ファンクションブロック(FB)

ネットワークインタフェースユニットで使用できるファンクションブロック(FB)を示します。

機能名	内容
動作履歴保存	指定した外部入出力信号のリレー ON/OFF履歴をCSVファイルに保存します。
ロギングデータ保存	対象ユニットのロギングデータをCSVファイルに保存します。

各ファンクションブロック(FB)のダウンロードおよびリファレンスマニュアルは，下記を参照してください。
https://www.mee.co.jp/sales/fa/meefan/